

# 臨床研究部 業績集

## 2018 年度

独立行政法人国立病院機構  
東京病院

平素より当院の臨床研究部に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、2018年度臨床研究部業績集（CD-R版）をお届けさせていただきます。ご高覧のうえ、ご意見・ご助言をいただければ幸甚に存じます。

なお、当院ホームページ上からも臨床研究部業績集（pdf版）をダウンロードできるようにする予定であります。将来的には、このpdf版をダウンロードできるようにすることで、臨床研究部業績集（CD-R版）の発行に代えさせていただきますと存じます。

令和2年1月

独立行政法人国立病院機構 東京病院  
院 長 當間 重人  
前臨床研究部長 永井 英明  
現臨床研究部長 古川 宏

## 目次

臨床研究部総括.....	1
I 研究室の現状.....	10
細菌免疫研究室.....	10
病理疫学研究室.....	11
病態生理研究室.....	14
生化学研究室.....	15
薬理学研究室.....	16
看護研究室.....	17
治験管理室.....	18
II 研究実績.....	19
英文原著論文（筆頭筆者）.....	19
英文原著論文（筆頭筆者以外）.....	20
和文原著論文（筆頭筆者）.....	25
和文原著論文（筆頭筆者以外）.....	26
和文総説・著書（筆頭筆者）.....	26
和文総説・著書（筆頭筆者以外）.....	28
国際学会.....	29
国内学会.....	30

## 臨床研究部総括

### 1. 臨床研究部概要

1987年10月1日 東京病院 臨床研究部設立

### 2. 歴代臨床研究部長

1987.10.01－1991.03.31 米田 良藏  
1991.04.01－1996.06.30 小松 彦太郎  
1996.07.01－1998.07.01 宍戸 春美  
1999.10.01－2008.03.31 倉島 篤行  
2008.04.01－2011.03.31 庄司 俊輔  
2011.04.01－2016.03.31 蛇澤 晶  
2016.04.01－2018.03.31 松井 弘稔  
2018.04.01－2019.06.31 永井 英明  
2019.07.01－ 古川 宏

### 3. 現体制

臨床研究部長：古川 宏  
治験管理室長：田下 浩之  
治験管理室主任：後藤 友美子  
治験コーディネーター：丸山 理香  
臨床研究補助員：5名  
事務補助：4名

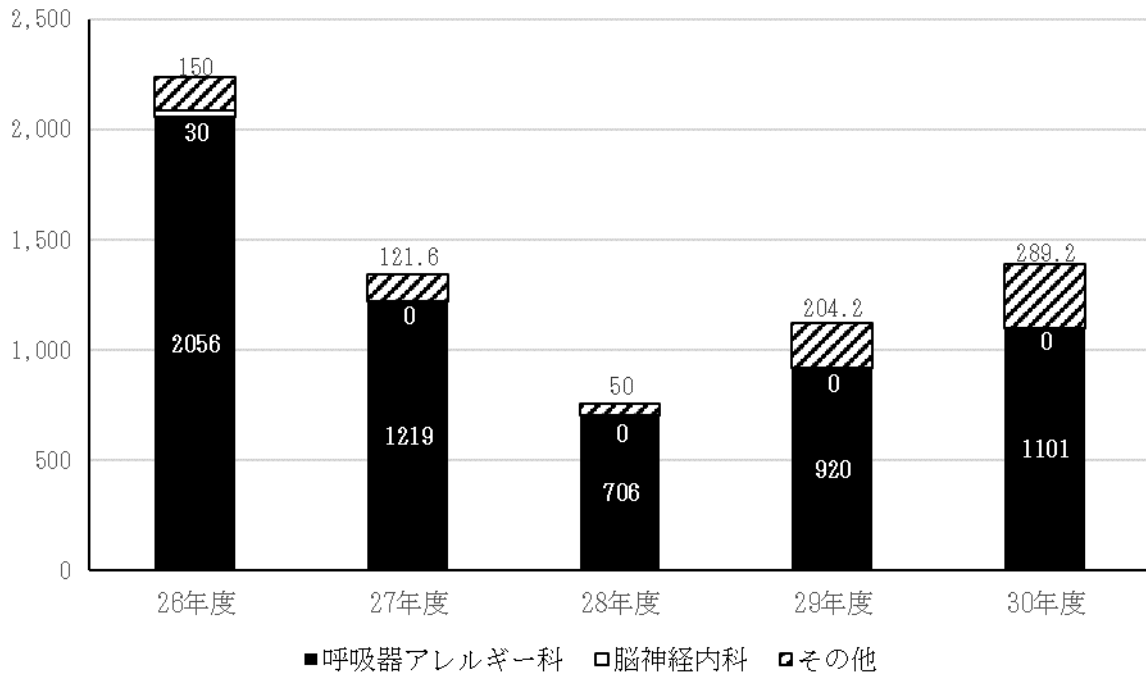
### 4. 研究室

細菌免疫研究室：室長 永井 英明  
病理疫学研究室：室長 田村 厚久  
生化学研究室：室長 鈴川 真穂  
薬理研究室：室長 當間 重人  
病態生理研究室：室長 新藤 直子  
看護研究室：室長 宗方 麻理

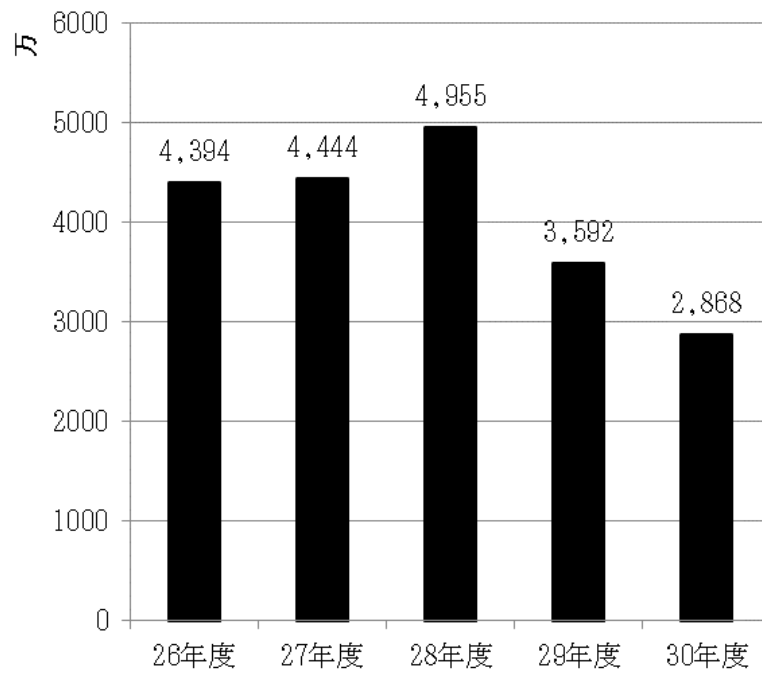
### 5. 平成30年度 主な行事

H30年6月 臨床研究部発表会  
H30年7月 臨床研究部運営委員会  
H30年11月 国立病院総合医学会（神戸）  
H31年3月 eAPRIN 教育研修5年目修了

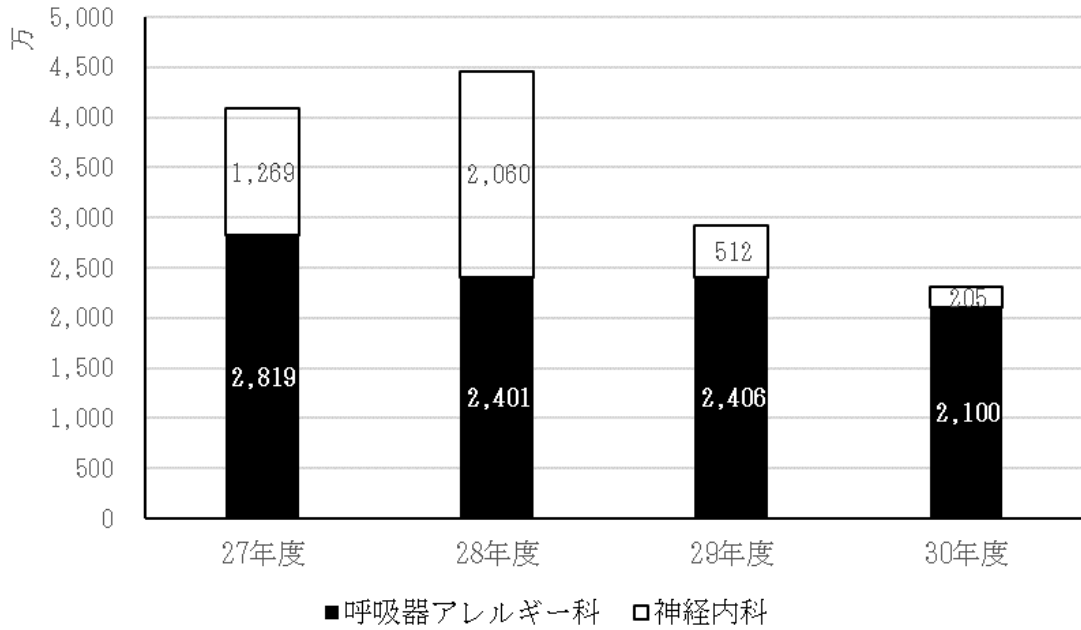
### 競争的資金獲得額(万円)



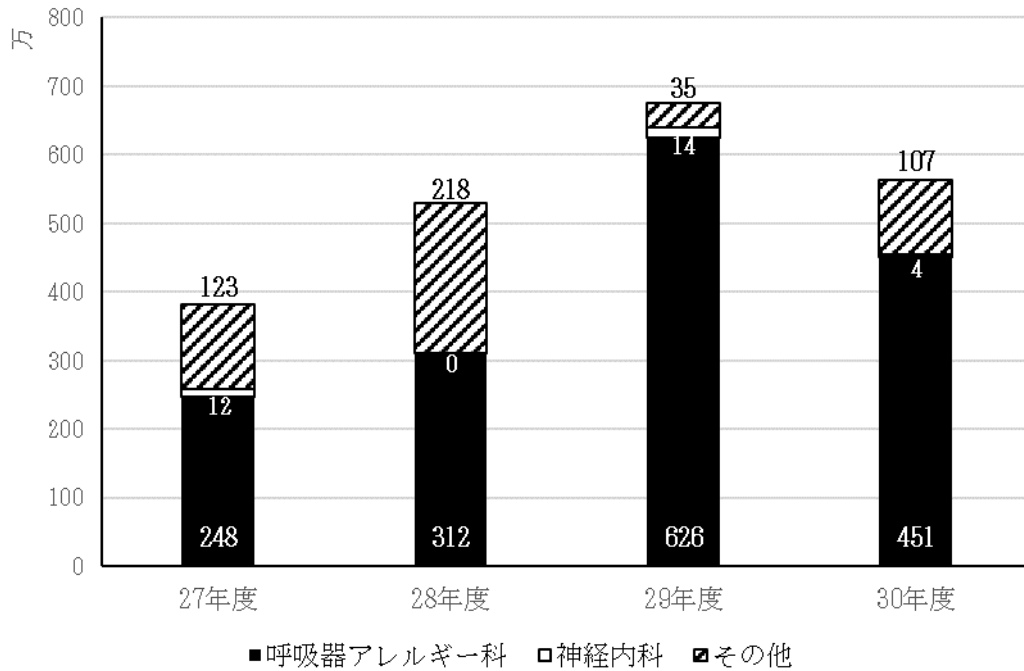
### 受託研究請求額



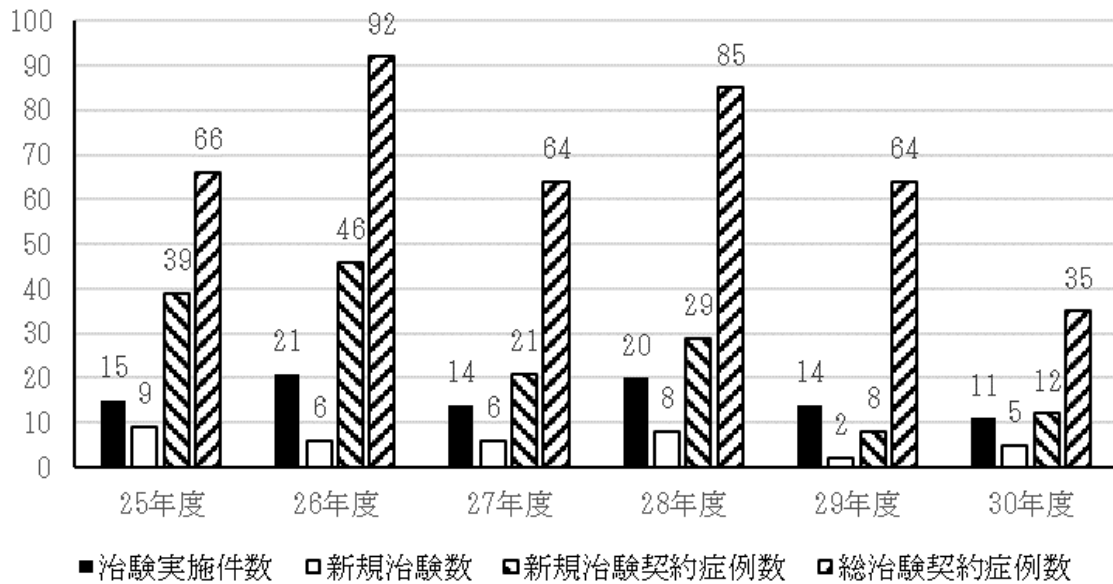
### 診療科別請求額（治験）



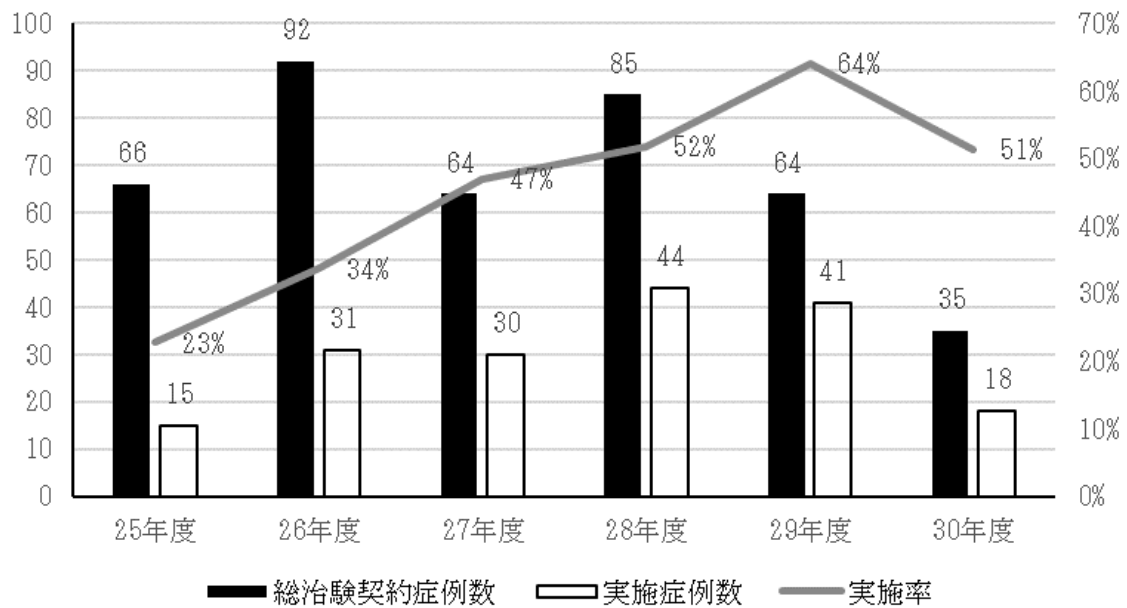
### 診療科別請求額 (受託臨床試験・製造販売後調査)



## 治験課題数と契約症例数



## 治験 実施率



# 臨床研究部 研究業績ポイント

臨床研究活動実績	英文論文		和文論文		学会発表		英文、和文論文、学会発表 総和	特許	EBM+NHO 共同研究	競争的 資金	治験新 規	製販後 調査公 費試験	プロト コル作 成	総計	
	総数	ポイント	総数	ポイント	総数	ポイント								ポイント	順位
2018年度 (H30)	55	416.703	38	55.5	202	210	682.203	0	18.45	69.51	27.50	85.5		<b>883.163</b>	19位
2017年度 (H29)	35	409.102	69	98.5	203	214	721.602	0	71.85	56.21	50.00	75.9	144	<b>1,119.562</b>	19位
2016年度 (H28)	31	494.576	51	73.5	202	211	779.076	0	19.2	37.8	47.50	23.5	93	<b>1,000.076</b>	24位 最終報告 <b>990.608</b>
2015年度 (H27)	28	286.902	61	87	187	199	572.902	0	17	67.03	45.00	27	81	<b>809.932</b>	28位
2014年度 (H26)	22	267.064	68	97.5	209	218	582.564	0	10.9	150.25	70.00	7.75	168	<b>989.464</b>	26位

# 競争的資金

財源別	研究課題名	研究者名	研究事業名 (依頼業者名)	主任 分担の別	研究費 受領年月日	新規 又は継続	研究種別	研究費獲得額 (単位: 万円)			
								主任研究者 直接経費金 額	分担研究者 直接経費金 額	間接経費金 額	合計 (直接経費 +間接経費)
日本学術振興会科学研究費	突発性肺線維症に対する細胞マクロファージ特異的抗IGF-1抗体療法を試み (17K09634)	大田健	基盤研究 (C)	主任	H30.4.16	継続	補助金(研究費)	110	0	33	143
日本学術振興会科学研究費	気道上皮細胞の上皮間葉転換による自然免疫応答調節作用の解明 (17K09633)	大島信治	基盤研究 (C)	主任	H30.4.16	継続	補助金(研究費)	110	0	33	143
日本学術振興会科学研究費	QFT-Plusによる結核診断能評価および新規結核バイオマーカーの探索 (18K08461)	永井英明	基盤研究 (C)	主任	H30.7.18	新規	補助金(研究費)	150	0	45	195
厚生労働科学研究費	びまん性肺疾患に関する調査研究 (H29-難治等(難)一般-023)	蛇澤晶	難治性疾患政策研究事業	分担	H30.8.3	継続	補助金(研究費)	0	30	0	30
日本医療研究開発機構研究費	肝硬変患者の予後を含めた実態を把握するための研究 (18fk0210019h0002)	上司裕史	感染症実用化研究事業	分担	H30.8.31	継続	委託研究費	0	44	8.8	52.8
日本医療研究開発機構研究費	海外とのネットワークを活用した多剤耐性結核の総合的対策に資する研究 (18fk0108042h0002)	小林信之 永井英明	感染症実用化研究事業	分担	H30.8.31	継続	委託研究費	0	161.5	48.5	210
日本医療研究開発機構研究費	多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの開発・実用化に向けた研究 (18fk0108006h0003)	山根章	感染症実用化研究事業	分担	H30.9.28 H30.10.31	新規	委託研究費	0	138.5	41.5	180
日本医療研究開発機構研究費	ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究 (18fk0410016h0001)	永井英明	感染症実用化研究事業	分担	H30.9.28	新規	委託研究費	0	138.5	41.5	180
日本医療研究開発機構研究費	アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発 (18ek0410026h0003)	蛇澤晶	免疫アレルギー疾患等実用化研究事業	分担	H30.10.25 H30.11.22	継続	委託研究費	0	70.3	21.1	91.4
民間セクターからの寄附金	気管支喘息のバイオマーカーとしてのSiglec-8値の有用性に関する研究	大田健	ノバルティスファーマ株式会社	主任	H30.10.22	新規	補助金(研究費)	50	0	0	50
民間セクターからの寄附金	関節リウマチ患者における結核既感染率の経年的変化を明らかにするための研究慢性関節リウマチに関する研究	富岡重人	中外製薬株式会社	主任	H30.10.22	新規	補助金(研究費)	50	0	0	50
民間セクターからの寄附金	感染症に関する研究助成	富岡重人	ファイザー株式会社	主任	H30.11.28	新規	補助金(研究費)	50	0	0	50
民間セクターからの寄附金	関節リウマチ患者における帯状疱疹の罹患率に関する観察研究	富岡重人	日本イーライリリー株式会社	主任	H30.12.11	新規	補助金(研究費)	15	0	0	15



# NHOネットワーク共同研究

(主任研究者)

	番号	研究課題名	研究代表者	H30年度 取得例数
1	H27-NHO(呼吸)-02	次世代シーケンサーによる結核菌の全ゲノム解析を用いた薬剤耐性結核の診断および治療法の開発に関する研究	小林信之	
2	H28-NHO(免疫)-01	本邦における20年の喘息診療の変遷調査と重症喘息を対象としたクラスター解析によるフェノタイプ・エンドタイプの同定	大田健	80
3	H28-NHO(呼吸)-01	肺Mycobacterium avium complex症に対するフルオロキノロンの使用実態調査	川島正裕	27
4	H29-NHO(骨運)-01	本邦における非定型大腿骨骨折の遺伝子リスク因子を探索するための多施設共同研究	當間重人	1
5	H30-NHO(免疫)-01	関節リウマチ関連間質性肺病変の低分子代謝産物バイオマーカーの探索	當間重人	

(分担研究者)

	番号	研究課題名	研究責任者	H30年度 取得例数
1	H25-NHO(癌呼)-01	非小細胞肺癌患者に対するerlotinib投与時に皮疹軽減のためのminocycline併用の有用性を検討するランダム化比較第3相試験	田村厚久	
2	H26-NHO(呼吸)-01	慢性線維化性特発性間質性肺炎の適正な診断治療法開発のための調査研究	成本治	
3	H28-NHO(消化)-01	大腸憩室出血の標準的な診断・治療の確立を目指した無作為化比較試験	喜多宏人	
4	H28-NHO(肝)-01	原発性胆汁性肝硬変の発症と重症化機構の解明のための多施設共同研究	上司裕史	
5	H28-NHO(肝)-02	C型肝炎ウイルス駆除後の肝発癌予測に関する研究	上司裕史	
6	H28-NHO(免疫)-03	関節リウマチで破壊された関節組織を用いた観察研究ネットワーク体制の拡充-強力な薬物療法後もなお残るリウマチの病態解明をめざして-	當間重人	
7	H28-NHO(呼吸)-02	間質性肺炎患の「急性増悪」に関する前向き観察と診断基準作成の試み	成本治	28
8	H28-NHO(多共)-02	メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究	當間重人	
9	H29-NHO(肝)-01	日本人自己免疫性肝炎(AIH)に関する分子疫学研究と分子標的療法の確立	上司裕史	
10	H29-NHO(肝)-02	薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究	上司裕史	
11	H29-NHO(免疫)-02	長引く咳嗽に対する新規診断・治療アルゴリズムの有用性を検討する非ランダム化比較試験	田下浩之	
12	H30-NHO(呼吸)-01	結節・気管支拡張型肺MAC症に対する間欠的治療と連日治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	川島正裕	

# EBM 研究

	課題略称	研究責任者	研究課題名	H30年度 取得例数
1	CPI	永井英明	免疫抑制患者に対する13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型肺炎球菌ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験－	2
2	GFACS	大田健	日本人多種化学物質過敏症に関連する遺伝要因の解明～病因病態の解明と客観的な診断方法の確立に向けて～	7
3	ELUCIDATOR	田村厚久	第三世代EGFR-TKIオンメルチニブ治療における血漿循環腫瘍DNAを用いた治療耐性関連遺伝子スクリーニングの 前向き観察研究	

# 治験

	研究課題名	相	所属	責任医師	依頼者
1	院内肺炎又は人工呼吸器関連肺炎患者を対象としたイミベネム／シラスタチン／relebactam (MK-7655A) の有効性、安全性及び忍容性を評価するためのピペラシリン／タゾバクタム対照、無作為化、第III相、二重盲検試験	III	呼吸器内科	永井英明	MSD株式会社
2	コントロール不十分な重症喘息患者を対象として、既存の喘息治療に追加した場合のQAW039の有効性及び安全性を評価する、52週間の多施設共同、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験	III	アレルギー科	大島信治	ノバルティス ファーマ株式会社
3	早期アルツハイマー病患者を対象にaducanumab (BIIB037) の有効性及び安全性を評価する多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照並行群間比較第III相試験	III	神経内科	小宮正	バイオジェン・ジャパン株式会社
4	中等症から重症の日本人慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者を対象にPT010、PT003、およびPT009を投与したときの安全性および有効性を実薬対照のSymbicort® Turbuhaler®と比較検討する多施設共同28週間反復投与無作為化二重盲検並行群間比較継続試験	III	呼吸器内科	益田公彦	パールセラピューティクス社
5	GINAステップ3、4、及び5の治療でコントロール不十分な喘息患者を対象に、既存の喘息治療に追加投与した場合のQAW039の安全性を評価する、2期投与（投与期1及び投与期2）、ランダム化、プラセボ対照、多施設共同、並行群間試験	III	アレルギー科	大島信治	ノバルティス ファーマ株式会社
6	日本人深在性真菌症に対するAK1820の第III相試験－AK1820の安全性および有効性を評価する、多施設共同、非盲検試験－	III	呼吸器内科	鈴木純子	旭化成ファーマ株式会社
7	ヒトメタニューモウイルス感染症の成人入院患者を対象としたLumicitabine (JNJ-64041575) を経口投与したときの抗ウイルス活性、臨床アウトカム、安全性、忍容性、及び薬物動態の検討のための後期第2相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験	II	呼吸器内科	川島正裕	ヤセンファーマ株式会社
8	ONO-4538 第III相試験 非扁平上皮非小細胞肺癌に対する多施設共同二重盲検無作為化試験	III	呼吸器内科	田村厚久	小野薬品工業株式会社
9	慢性咳嗽を有する成人被験者におけるMK-7264の有効性及び安全性を評価する12ヵ月間の無作為化、二重盲検、プラセボ対照の第III相試験 (027試験)	III	アレルギー科	田下浩之	MSD株式会社
10	化学療法剤INHとRFPに耐性の結核菌（多剤耐性結核菌）による肺結核患者を対象としたKCMC-001の筋肉内投与による安全性/忍容性及び予備的な有効性検討のためのオープンラベル試験（第I相）	I	呼吸器内科	山根章	医師主導
11	高度催吐性抗悪性腫瘍薬（シスプラチン）投与患者を対象としたPro-NETU第III相二重盲検比較試験	III	呼吸器内科	田村厚久	大鵬薬品工業株式会社

## 受託臨床研究・製造販売後調査

	研究課題	所属	責任医師	依頼者
1	献血ベニコロン-I使用成績調査（チャージ・ストラウス症候群、アレルギー性肉芽腫性血管炎）	アレルギー科	大島信治	帝人ファーマ株式会社
2	コレアジン錠12.5mg使用成績調査	神経内科	椎名盟子	アルフレッサ ファーマ株式会社
3	ゾレア®皮下注用 特定使用成績調査（新たに設定された投与量換算表に該当する用法・用量）	アレルギー科	大島信治	ハルティスファーマ株式会社
4	再発危険因子を有するハイリスクStage II 結腸がん治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第III相比較臨床試験 ACHIEVE-2 Trial (Adjuvant Chemotherapy for colon cancer with High Evidence in high-risk stage 2)	消化器外科	元吉誠	公益財団法人がん集学的治療研究財団
5	脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討 CSPS.com(Cilostazol Stroke Prevention Study . Combination)	神経内科	石津暢隆	公益財団法人 循環器病研究振興財団 CSPS.com研究事務局
6	気管支充填材EWSの有効性・安全性等に関する使用成績調査	アレルギー科	田下浩之	原田産業株式会社
7	デルティバ錠50mg使用成績調査	アレルギー科	大島信治	大塚製薬株式会社
8	「MAC rRNA 検出試薬 TRCReady MAC」の性能評価	臨床研究部	蛇澤晶	東ソー株式会社
9	Alair 気管支サーモプラスチックシステム使用成績調査	アレルギー科	田下浩之	ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
10	アノーロエリプタ使用成績調査	臨床研究部	松井弘稔	グラクソ・スミスクライン株式会社
11	オフェブ®カプセル特定使用成績調査(全例調査)	呼吸器内科	赤川志のぶ	日本ベリンガーインゲルヘルム株式会社
12	オブジーボ®特定使用成績調査（切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌）	呼吸器内科	田村厚久	小野薬品工業株式会社
13	高齢者化学療法未施行IIIIB/IV期扁平上皮肺癌に対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験(CAPITAL)	呼吸器内科	田村厚久	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
14	侵襲性アスペルギルス症以外のアスペルギルス感染症における血中アスペルギルスIgG抗体の検討	呼吸器内科	鈴木純子	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
15	ヴィキラック®配合錠 使用成績調査	消化器内科	上司裕史	アヴィ合同会社
16	エリキュース錠2.5mg・5mg 特定使用成績調査（VTE・長期使用）	循環器内科	青木和浩	ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社
17	タグリッソ錠使用成績調査（全例調査）	呼吸器内科	田村厚久	アストラゼネカ株式会社
18	エクリラ400μgジェヌエア特定使用成績調査	アレルギー科	田下浩之	杏林製薬株式会社
19	既治療の進行・再発非小細胞肺癌を対象としたニボルマブ治療における効果と至適投与期間予測に関する観察研究（NewEpoch）	呼吸器内科	田村厚久	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
20	エンクラッセ®エリプタ®使用成績調査	呼吸器内科	赤司俊介	グラクソ・スミスクライン株式会社
21	キイトルーダ®点滴静注使用成績調査（非小細胞肺癌）	呼吸器内科	田村厚久	MSD株式会社
22	D2287R00103閉塞性肺疾患観察試験（NOVELTY） 喘息及び／又はCOPDと診断されたかその疑いがあると診断された患者を対象に、経時的な患者の特性、治療パターン、及び疾患の負荷の特徴を示し、今後の個別化治療法の開発を支援しうる喘息／COPDを見分けるアウトカムに関連する表現型及びエンドタイプを特定することを目的とした最新（NOVEL）の縦断的（longitudinal）観察試験（study）	アレルギー科	田下浩之	パレクセル・インターナショナル株式会社 パレクセルアクセスORクリニカルオペレーションズCSM
23	EGFR-TKI治療中に病勢進行をきたした非小細胞肺癌患者における 遺伝子変異検査及び治療方針決定に関する実態調査	呼吸器内科	田村厚久	-

24	非結核菌群DNA検出試薬「cobas MA 1」に関する相関性評価	呼吸器内科	川島正裕	ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
25	結核菌群DNA検出試薬「cobas MTB」に関する相関性評価	呼吸器内科	川島正裕	ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
26	日本人深在性真菌症に対するAK1820の第III相試験－AK1820の安全性および有効性を評価する、多施設共同、非盲検試験－	呼吸器内科	鈴木純子	旭化成ファーマ株式会社
27	オプスミット錠10mg特定使用成績調査(長期使用)	呼吸器内科	守尾嘉晃	アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会社
28	ビンダケルカプセル特定使用成績調査－長期使用に関する調査－	神経内科	中村美恵	ファイザー株式会社
29	在宅酸素療法を必要とする安定期COPD患者における長期高流量鼻カニューラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討：多施設前向きランダム化比較試験	呼吸器内科	赤司俊介	公益財団法人 先端医療振興財団
30	レルベア100エリプタ特定使用成績調査	呼吸器内科	赤司俊介	グラクソ・スミスクライン株式会社
31	キイトルーダ®点滴静注 副作用・感染症・有害事象詳細調査	呼吸器内科	中村澄江	MSD株式会社
32	キイトルーダ®点滴静注 副作用・感染症・有害事象詳細調査	呼吸器内科	後町杏子	MSD株式会社
33	キイトルーダ®点滴静注 副作用・感染症・有害事象詳細調査	呼吸器内科	佐藤亮太	MSD株式会社
34	キイトルーダ®点滴静注 副作用・感染症・有害事象詳細調査	呼吸器内科	佐藤亮太	MSD株式会社
35	アデムパス錠使用成績調査(慢性血栓塞栓性肺高血圧症)	呼吸器内科	守尾嘉晃	バイエル薬品株式会社
36	テセントリク®点滴静注1200mg 使用成績調査(全例調査)	呼吸器内科	田村厚久	中外製薬株式会社
37	バリシチニブ(オルミエント)特定使用成績調査 既存治療で効果不十分な関節リウマチ患者を対象とした全例調査	リウマチ科	當間重人	日本イーライリリー株式会社
38	新規抗酸菌核酸検査試薬の臨床性能試験	呼吸器内科	永井英明	株式会社医学微生物学研究所
39	ヌーカラ®皮下注用特定使用成績調査(長期) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	呼吸器内科	大島信治	グラクソ・スミスクライン株式会社
40	新規結核診断薬の予備臨床試験	呼吸器内科	川島正裕	株式会社LSIメディエンス
41	タケキャブ錠特定使用成績調査「非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制：長期使用」	整形外科	堀達之	武田薬品工業株式会社
42	オイパロミンにおける副作用・感染症等調査(整理番号 20180570)	消化器内科	染村祥	富士製薬工業株式会社
43	キイトルーダ®点滴静注 副作用・感染症・有害事象詳細調査	呼吸器内科	田村厚久	MSD株式会社
44	イミフィンジ点滴静注120mg、500mg 切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的放射線療法後の維持療法の患者を対象とした特定使用成績調査	呼吸器内科	田村厚久	アストラゼネカ株式会社
45	切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの多施設共同前向き観察研究：(J-TAIL)	呼吸器内科	田村厚久	中外製薬株式会社
46	テクフィデラ®カプセル使用成績調査	神経内科	中村美恵	エーザイ株式会社
47	ジカディア特定使用成績調査	呼吸器内科	田村厚久	ノバルティスファーマ株式会社
48	AIを用いた画像解析に必要な基礎的なデータの集積と臨床応用のために必要な問題点の検出	臨床検査科	蛇澤晶	コニカミノルタ株式会社
49	オブジーボ®一般使用成績調査 がん化学療法後に増悪した切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫	呼吸器内科	田村厚久	小野薬品株式会社
50	ナルベイン注 一般使用成績調査	呼吸器内科	島田昌裕	第一三共株式会社

# I 研究室の現状

## 細菌免疫研究室

室長 永井 英明

H30 年度報告

### 1. 研究テーマ

研究テーマは主に抗酸菌に関わる研究、HIV 感染症に関わる研究、ワクチンに関わる研究等である。

抗酸菌に関わる研究では、「結核感染における IGRA の意義」については継続的に研究を行っている。また、増加が著しいが治療困難な非結核性抗酸菌症 (*M. avium* complex 症、*M. abscessus* 症) についての研究は中心的なテーマになりつつある。

HIV 感染症については、結核合併例を中心に臨床データの蓄積、HIV 合併結核における IGRA、治療における問題点の解決をテーマに研究を行っている。

ワクチンでは、肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンについて臨床研究を継続している。職員のインフルエンザワクチンの免疫原性、安全性については毎年行っている。13 価および 23 価肺炎球菌ワクチンについての免疫原性、安全性について検討している。

### 2. 研究成果最近免疫

・第 4 世代の QFT である QFT TB Gold Plus が新に登場したが、従来の IGRA である QFT-3G、T-SPOT との比較を、各種病態で検討した。「結核感染における QFT Gold Plus, QFT Gold In Tube の残血漿中サイトカイン値の検討」について第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 65 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2018 にて発表 (鈴川真穂)。「結核感染の診断における QFT Gold In Tube (QFT-3G) 中サイトカイン値の有用性に関する前向き研究 (赤司俊介)」、「肺 *Mycobacteroides abscessus* complex 症診断時検体での Early reading time における Clarithromycin 耐性 (武田啓太)」を第 94 回日本結核病学会総会にて発表。

・「80 歳以上の高齢者に対する肺 MAC 症治療の忍容性と効果についての検討 (新福響太)」を第 59 回日本呼吸器学会総会にて発表。

・AMED「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」『多剤耐性結核の海外からの侵入・拡大阻止に向けての疫学・治療研究と診断法の開発 (服部班)』の分担研究として「NHO 病院における HIV 合併多剤耐性結核の実態調査に関する研究 (永井英明)」を継続研究。

・AMED「エイズ対策実用化研究事業」『ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究 (照屋班)』の分担研究として「HIV 感染者における LTBI の早期発見および治療についての研究 (永井英明)」を継続研究。

## 病理疫学研究室

室長 田村 厚久

### A. 病理部門

#### 1. 研究室の状態

平成 30 年度の病理疫学研究室には、当院常勤医師（木谷 匡志医師および蛇澤 晶医師）、研修生（清水 宏繁医師（東邦大学大森医療センター呼吸器内科所属）、松林 沙知医師（国立国際医療研究センター呼吸器内科所属））が在籍し、4 名は病理形態を中心に研究を行っている。また、田村 厚久医師を中心に疫学研究が行われているほか、呼吸器内科の teaching X 線フィルムが保管されている。

#### 2. 院内カンファランス

経気管支肺生検例や外科的肺生検例を検討する呼吸器内科生検カンファランスおよび手術肺を検討する肺デモを第 2 火曜日に行っているほか、内科の剖検例を検討する CPC を適宜、開催している。

#### 3. 研究

i) 院内共同研究：多数の臨床学会研究報告に共同研究者として参加した。

ii) 院外共同研究：

a) 神奈川循環器呼吸器病センターの小倉 高志氏を代表者とした東京びまん性肺疾患研究会に参加し、間質性肺疾患を中心とした共同研究を行った。平成 30 年度のテーマは「予後不良の nonspecific interstitial pneumonia」であった。次年度のテーマは「IgG4 関連疾患」である。

b) 東海大学医学部の浅野浩一郎教授を班長としたアレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）に関する AMED 班会議に分担研究者として参加し、ABPM の前向き症例登録研究、免疫組織学的な RAG1/RAG2 の発現の研究を行った。

c) 東京医科歯科大学の稲瀬直彦教授を班長としたびまん性肺疾患調査研究班に分担研究者として参加し、間質性肺炎、細気管支炎の研究・協力を行った。

d) 浜松医科大学の須田隆文教授を研究代表者とした”特発性間質性肺炎の診断精度向上とエビデンス創出のためのクラウド型統合データベースとインタラクティブ診断システムの開発に関する研究班（AMED 難治性疾患実用化研究事業）”に研究協力者として参加し、間質性肺炎の診断に関する研究の協力を行った。

iii) 病理研究室内での研究：

抗酸菌症や一次性自然気胸・喀血・ABPM・閉塞性細気管支炎・sarcoidosis・慢性間質性肺炎を研究課題として取り組んでいる。

## B. 疫学部門

### 1. 研究活動状況

平成 30 年度には新たに 14 題の研究が開始され、現在、研究継続中（終了報告未提出含む）の課題数は 46 題に達している。この 46 題の内訳は臨床研究 31 題、疫学研究 7 題、観察研究、ヒトゲノム・遺伝子研究各 2 題、その他 4 題で、研究テーマの過半数は肺癌及び胸部悪性腫瘍関連（23 題）、次いで慢性呼吸器感染症（真菌症、抗酸菌症など）関連 9 題、間質性肺炎関連 5 題など、呼吸器疾患を対象とする研究が多数を占めている。

近年、学会や大きな研究グループが主導する大規模疫学研究が増加の一途を辿っており、当研究室でも継続課題の約半数（22 題）が多施設共同研究となっている。今後とも NHO ネットワーク研究・EBM 研究を中心に多施設共同研究へ積極的に参加し、多数の症例登録を行うことで発表、論文におけるプライオリティを確保していく方針である。

なお単施設少数症例集積研究の科学的価値の低下を背景に、これまで多くなされてきた当研究室研究からの原著論文化が難しくなっているため、今後の研究課題数減少が危惧される場所である。これに対しては、少数症例集積研究が症例報告の範疇で報告されている現状を踏まえ、今後策定される予定の簡素化症例報告計画書フォーマットを活用、研究の活性化を図っていきたい。

#### 1. 国立病院機構ネットワーク共同研究参加

- a) 70才以上高齢者進行非小細胞肺癌における化学療法に対する脆弱性予測に関する検討（分担：田村厚久）－研究終了。30例登録し、発表予定
- b) 非小細胞肺癌患者に対するerlotinib投与時に皮疹軽減のためのminocycline有用性を検討するランダム化比較第3相試験（分担：田村厚久）－研究終了。12例登録し、発表予定

#### 2. 国立病院機構EBM研究

- a) 第三世代EGFR-TKIオシメルチニブ治療における血漿循環腫瘍DNAを用いた治療耐性関連遺伝子スクリーニングの前向き観察研究（分担：田村厚久）－症例登録中

### 2. 多施設共同研究参加（上述病理部門研究を除く）

- a) 国立病院肺がん研究会（JNHOSGLC）による肺癌登録・予後調査データベースの更新と保守管理（分担：田村厚久・事務局）－症例登録中
- b) 高齢者化学療法未施行IIIIB/IV期扁平上皮肺がんに対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験（分担：田村厚久）－症例登録中
- c) 特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル + ニンテダニブ療法とカルボプラチン+nab-パクリタキセル療法のランダム化第II相試験（分担：田村厚久）－症例登録中
- d) がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：他施設共同前向き登録研究-Cancer VTE

Registry- (分担：田村厚久) -症例登録終了。30例登録。

- e) ALK陽性肺癌に関するレトロスペクティブ研究 - ALK陽性肺癌に対するクリゾチニブ後にアレクチニブを投与する治療シーケンスの臨床効果の多施設共同後ろ向き研究(分担：田村厚久) -症例登録終了。16例登録。
- f) 進行非小細胞肺癌に対するPD-1阻害薬投与後の化学療法の有効性や安全性を検討する後方視的施設研究(分担：田村厚久) -症例登録終了。14例登録。
- g) RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変異陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察(研究分担：田村厚久)-登録中。
- h) PI3K/AKT/mTOR 経路の遺伝子変異を含む稀な遺伝子異常を有する小細胞肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究(研究分担：田村厚久)-登録中。
- i) Cell free DNA を用いた次世代シーケンサーによるmultiplex遺伝子解析の有効性に関する前向き観察研究(研究分担：田村厚久)-登録中。
- j) EML4 - ALK融合遺伝子陽性肺癌における耐性機構の検討(分担：田村厚久) -症例登録中。
- k) Frailtyを有するEGFR遺伝子変異陽性再発・進行非小細胞肺癌に対する低用量erlotinibの第II相試験(分担：日下 圭) -症例登録終了。2例登録。
- l) 呼吸器外科手術症例における多施設データベースの構築(分担：深見武史) -症例登録中
- m) 肺癌に対するサルベージ手術の有効性と安全性を検討する多施設共同後ろ向き臨床研究 -症例登録終了。1例登録。
- n) 特発性肺線維症急性増悪症例の後ろ向き多施設共同研究(分担：赤川志のぶ) -症例登録中。
- o) 膠原病的背景を有する特発性間質性肺炎の多施設共同コホート研究(分担：赤川志のぶ) -症例登録終了。1例登録。
- p) 多剤耐性結核の分子疫学的解析、診断・治療法の開発に関する研究：東京都市圏における多剤耐性結核(分担：小林信之) -症例登録終了。
- q) 多剤耐性結核菌の全ゲノム解析による薬剤耐性遺伝子および分子疫学に関する研究(分担：小林信之) -症例登録終了。
- r) 重症筋無力症及びランバート・イートン無筋力症の全国疫学調査(分担：深見武史) -症例登録終了。2例登録。
- s) 進展型小細胞肺癌における肝転移の有無が患者の予後与える影響を明らかにするための後方視的研究(分担：田村厚久) -症例登録終了。54例登録。



# 病態生理研究室

室長 伊藤 郁乃

## 1. 組織

H30 年度度は、14 課題の研究が行われ、呼吸器内科・呼吸器外科・リハビリテーション科・栄養管理室の研究が継続中である。研究責任者は、医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・栄養士等、多職種による幅広いテーマが集まっている。

## 2. H30 年度の行われた研究と成果の一部を示す。

### 呼吸器内科

- ・気管支喘息に対する気管支サーモプラスティの安全性および有効性についての検討
- ・呼吸器疾患に伴う肺高血圧症の多施設共同前向き症例登録研究
- ・COPDにおける間質性陰影の有無による呼吸機能の解析
- ・気管支拡張症における在宅長期NPPVの有効性の研究
- ・気管支動脈塞栓術における周術期合併症の後ろ向き検討
- ・日本における気管支サーモプラスティの有用性と安全性に関する多施設共同研究
- ・自己免疫性肺胞蛋白症疑いに対する抗GM-CSF抗体測定

### 呼吸器外科

- ・間質性肺炎合併肺癌切除患者における術後急性増悪予測多施設共同非介入前向き研究

### リハビリテーション科

- ・亜急性期病床から回復期リハビリテーション病棟への移行に伴う患者属性・在院日数・自宅復帰率・ADLの変化に関する調査（学会発表済み・投稿中）
- ・HOT導入中の患者のADLに関する実態調査（学会発表済み）
- ・入浴動作が呼吸器疾患患者の身体へ及ぼす影響と入浴訓練の安全性に関する検討（学会発表済み・座長推薦・投稿してアクセプトされ、掲載予定）
- ・脳卒中回復期患者の麻痺側下肢への機能的電気刺激の即時効果（学会発表済み）
- ・脳卒中後の嚥下障害に対する電気刺激療法の即時効果の検証  
(院内の臨床研究部発表会で発表・症例集積中)

### 栄養管理室

- ・結核患者の栄養管理の実態と今後の在り方に関する研究（787症例：学会発表予定）

## 3. 今後の課題

多科多職種から幅広い臨床研究テーマが集まり、それぞれの結果を共有することにより、研究の質、更には診療の質の向上に繋がるのが最終的な目標である。

コメディカルからの研究課題申請の促進と学会発表、論文化を習慣づけたい。

## 生化学研究室

室長 鈴木 真穂

### 1. 研究の状況

平成30年度、当研究室では以前から行われている肝炎患者を対象とした厚労班研究、喘息および間質性肺炎のメカニズムに関わる基礎的研究、細胞周期に関わる分子機構の研究を引き続き遂行した。

また、平成30年度は、大田 健 名誉院長の NHO ネットワーク研究「喘息診療の実態調査と重症喘息を対象としたクラスター解析によるフェノタイプ・エンドタイプの同定」において、27施設が多施設共同研究として1925症例の登録を終了し、引き続き追跡調査を行っており、本邦における大規模な喘息診療実態調査となる。

### 2. 主な研究テーマと進捗状況

平成30年度は、東京大学呼吸器内科から迎えた二代目大学院生 荒川さやか先生が学位を取得された。学位論文のテーマは「IgA のヒト肺線維芽細胞に対する作用とその機序の解明について」であり、当研究室で遂行した研究内容であった。学位論文に関連した主論文は平成30年度に採択されており、“Secretory immunoglobulin A induces human lung fibroblasts to produce inflammatory cytokines and undergo activation.” が2019年に *Clinical Experimental Immunology* に掲載された。

平成30年度から、東京大学呼吸器内科から新たに大学院生 渡邊かおる先生が来られた。テーマは「レプチンによるヒト肺線維芽細胞活性化機構の解明」とし、すでに “Leptin enhances cytokine/chemokine production by normal lung fibroblasts by binding to leptin receptor.” が *Allergology International* に採択され、2019年度に掲載された。引き続き、呼吸器疾患の肺組織を用いて、免疫組織学的検討を加えている。

東京大学呼吸器内科、群馬大学生体調節研究所、東京大学医科学研究所などとの共同研究を進めている。

### 3. 今後の展望

平成30年度は、大学院生、ポスドクの小林宏一先生を中心に、論文発表、学会発表を活発に行った。これまでも NHO ネットワーク研究に加え、日本学術振興会科学研究費助成事業の研究を進めてきたが、今後はさらに、製薬会社の資金サポートを受けたアカデミア・医師主導研究、環境再生保全機構の調査研究も採択されていることから、これまで以上に研究の幅が広がると考えている。特に、豊富な症例と研究面での恵まれた環境が備わっている当院の特徴を活用し、基礎および臨床研究ともに幅広く進めること、また研究に関与するメンバーを増やして、平成31年度もさらに飛躍して行きたいと考えている。

## 薬理学研究室

室長 當間 重人（代筆 鈴川 真穂）

### 1. 主な研究テーマと進捗状況

当研究室では伝統的に、抗結核薬の血中濃度測定を明治薬科大学の花田和彦先生に測定していただき、結核患者の診療に役立てている。

また、アスペルギルスに関する研究も行っており、肺アスペルギルス症臨床分離株におけるアスペルギルス薬剤感受性の検討を、千葉大学真菌医学研究センターの亀井克彦先生と当院の鈴木純子先生が検討している。

平成29年度からは、過敏性肺炎に対する抗原抽出と沈降抗体の検出が可能な系を確立し、過敏性肺炎の診療に役立てている。

IPFの研究において世界的に有名なDavid Schwartz先生と当院 大田健名誉院長との共同研究においては、IPF患者の遺伝学的検討から、“Resequencing Study Confirms That Host Defense and Cell Senescence Gene Variants Contribute to the Risk of Idiopathic Pulmonary Fibrosis.”がAm J Respir Crit Care Med.に採択され、2019年度に掲載された。

大田 健 名誉院長のボストンサイエンティフィック社によるInvestigator-Sponsored Research Programに採択された研究課題「成人重症喘息に対するサーモプラスティ治療の作用機序の解明」については、多施設共同研究観察研究であり、気道粘膜生検や気管支被覆液の解析を含んでいるが、順調に患者の登録が進んでいる状況である。

この他にも、呼吸器疾患で重要な疾患と治療薬に関する様々な研究が実施されている。

### 2. 今後の展望

当研究室では、臨床検体を用いた免疫組織化学的検討も活発に行っており、新たに呼吸器疾患の病態解明に結びつくような研究が複数開始されている。

一方、他施設との共同研究も精力的に進めており、当院に限らず、他の施設でも興味を持っていただけるような有意義な研究を推進し、当院臨床研究部の活動の幅が確実に広がっていると考えている。

研究および実験に関与する人も着実に増加していることから、来年度以降もさらに充実した研究活動を進めていきたい。

## 看護研究室

室長 宗方 麻理

臨床の看護実践における看護研究は、大変有意義であり、看護の質向上にも反映されると考える。看護部では、東京医療保健大学から講師を招き、月に一回の指導を受け看護研究を進めてきた。平成 30 年度は国立病院総合医学会に 3 題、国立病院看護研究学会に 1 題、他学会に 4 題を発表した。看護研究室として、今後も研究活動の支援を積極的に行っていきたい。

### 【平成 30 年度研究発表実績】

#### 1. 第 72 回国立病院総合医学会

1) ICU における挿管患者へのせん妄ケアの現状～J-PAD ガイドラインを導入して～

ICU 看護師 脇実花

2) 緩和ケア病棟で最期を迎える患者の家族へのケア計画～リフレットを用いた家族ケに着目して～

1 病棟看護師 八丁明菜

3) 退院調整看護師参加によるスムーズな在宅緩和ケアへの移行

地域連携室 退院調整看護副看護師長 野上智絵

#### 2. 第 16 回国立病院看護研究学会

1) 看護師の勤務体制変更による脳血管疾患患者の転倒に関する考察

3 西病棟看護師 安田将

#### 3. 第 59 回日本肺癌学会学術集会

1) 外来科学療法室における緩和ケア介入の後方視的調査外

外来副看護師長 がん化学療法看護認定看護師 井原亜沙子

#### 4. 平成 23 年度日本緩和医療学会学術大会

1) 緩和ケアチーム活動の質の向上を図るための取り組み

緩和ケア認定看護副看護師長 村山朋美

2) 多職種チーム連携により意志決定支援を実践し在宅での最期を迎えられた一事例

地域連携室 退院調整看護副看護師長 野上智絵

#### 5. 回復期リハビリテーション病棟協会第 33 回研究大会

1) 経腸栄養ポンプ使用に嘔吐症状の改善がみられ離床が可能となったくも膜下出血の一症例

3 西病棟看護師 中村真弓

## 治験管理室

室長 田下 浩之

### 体制

H30 年度の治験管理室は臨床研究部長の下、治験管理室長、治験主任、常勤 CRC 2 名（看護師 1 名、薬剤師 1 名）、非常勤 CRC 1 名、臨床研究補助員 1 名、治験事務補助員 2 名で運営されている。主な業務は治験や受託研究、臨床研究の事務局、治験参加者のリクルート、治験実施の補助に加え、治験審査委員会及び臨床研究倫理審査委員会の事務局を行っている。

### 実績

H30 年度は新規の治験は前年より増加したが治験実施症例数は前年よりも減少した。受託研究については、件数は例年並みであったが請求額は減少した。

治験審査委員会及び臨床研究倫理審査委員会については毎月 1 回定期的に開催されている。

治験実施件数は減少傾向ではあるが、今後も円滑な治験運営、新規治験の獲得に注力している。

		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
治験	治験実施件数	21	14	20	13	11
	新規	6	6	8	2	5
	同意説明症例数	60	27	33	32	26
	同意取得症例数	31	23	24	23	18
	投与症例数	27	17	18	20	11
受託研究	新規	16	16	19	22	20
受託研究請求額（千円）		¥43,942	¥44,439	¥49,552	¥35,924	¥28,679

			26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
治験審査委員会	治験	新規	2	2	7	1	3
		継続	120	59	78	60	38
	受託	新規	16	15	14	22	19
		継続	52	41	33	46	47
臨床研究倫理審査委員会		新規	58	28	26	48	38
		継続	42	44	38	44	65
利益相反審査委員会		新規	22	28	41	57	46
臨床研究事前審査会		新規	60	30	33	49	40

## II 研究実績

### 英文原著論文（筆頭筆者）

1. Arakawa S, Suzukawa M, Watanabe K, Kobayashi K, Matsui H, Nagai H, Nagase T, Ohta K. Secretory immunoglobulin A induces human lung fibroblasts to produce inflammatory cytokines and undergo activation. *Clinical and Experimental Immunology*. 2019 Mar;195(3):287-301. doi: 10.1111/cei.13253.
2. Arakawa S, Suzukawa M, Ohshima N, Tashimo H, Asari I, Matsui H, Kobayashi N, Shoji S, Nagase T, Ohta K. Expression of Siglec-8 is regulated by interleukin-5, and serum levels of soluble Siglec-8 may predict responsiveness of severe eosinophilic asthma to mepolizumab. *Allergology international*. 2018.67;S41-S44
3. Ando T, Kawashima M, Matsui H, Takeda K, Sato R, Ohshima N, Nagai H, Kitani M, Hebisawa A, Ohta K. Clinical Features and Prognosis of Nontuberculous Mycobacterial Pleuritis. *Respiration* 2018 96 6:507-513
4. Ando T, Kawashima M, Masuda K, Takeda K, Okuda K, Suzuki J, Ohshima N, Horibe M, Tamura A, Nagai H, Matsui H, Ohta K. Exacerbation of chronic pulmonary aspergillosis was associated with a high rebleeding rate after bronchial artery embolization. *Respir Investig*. 2019 May;57(3):260-267. doi: 10.1016/j.resinv.2018.12.009.
5. Inoue E, Ohshima N, Ikeda M, Watanabe M, Kawashima M, Suzuki J, Masuda K, Yamane A, Matsui H, Nagai H. Investigation of potential prognostic factors for the increasingly prevalent miliary tuberculosis in Japan. *Kekkaku* 2018;93(11-12):591-596
6. Ohta K, Adachi M, Tohda Y, Kamei T, Kato M, Mark Fitzgerald J, Takanuma M, Kakuno T, Imai N, Wu Y, Aurivillius M, Goldman M. Efficacy and safety of benralizumab in Japanese patients with severe, uncontrolled eosinophilic asthma. *Allergology International* 2018 Apr 67 2 266-272.
7. Kamii Y, Nagai H, Kawashima M, Matsuki M, Nagoshi S, Sato A, Kohno S, Ohgiya M, Ohta K. Adverse reactions associated with long-term drug administration in Mycobacterium avium complex lung disease. *International Journal of Tuberculosis and Lung Disease* 2018 Dec 22-12
8. Sato R, Nagai H, Matsui H, Yamane A, Kawashima M, Higa K, Nakamura S, Ohshima N, Tamura A, Hebisawa A. Ten Cases of Intestinal Tuberculosis which Were Initially Misdiagnosed as Inflammatory Bowel Disease. 10.2169/internalmedicine.2361-18 Intern Med Advance Publication.

Internal medicine. 2019 Jul 15;58(14):2003-2008. doi: 10.2169/internalmedicine.2361-18.

9. Shimada M, Tamura A, Yokosuka K, Kusaka K, Matsui H, Nagai H, Ohta K. A successful pembrolizumab treatment case of lung adenocarcinoma after becoming resistant to ALK-TKI treatment due to G1202R mutation. *Respiratory Investigation*.2018.56(4).365-368.

10. Sugimoto N, Suzukawa M, Nagase H, Koizumi Y, Ro S, Kobayashi K, Yoshihara H, Kojima Y, Kamiyama-Hara A, Hebisawa A, Ohta K. IL-9 Blockade Suppresses Silica-induced Lung Inflammation and Fibrosis in Mice. *American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology* 2019 Feb;60(2):232-243. doi: 10.1165/rcmb.2017-0287OC.

11. Takeda K, Chikamatsu K, Igarashi Y, Morishige Y, Murase Y, Aono A, Yamada H, Takaki A, Mitarai S. Six species of nontuberculous mycobacteria carry non-identical 16S rRNA gene copies. *J Microbiol Methods* 2018; 155: 34-36.

12. Yokoyama A, Tamura A, Miyakawa K, Kusaka K, Shimada M, Hirose T, Matsui H, Kitani M, Hebisawa A, Ohta K. Pulmonary Adenocarcinoma, Harboring Both an EGFR Mutation and ALK Rearrangement, Presenting a Stable Disease to Erlotinib and a Partial Response to Alectinib. *Internal Medicine*. 2018 57 16:2377-2382.

## 英文原著論文（筆頭筆者以外）

13. Adachi M, Kozawa M, Yoshisue H, Lee Milligan K, Nagasaki M, Sasajima T, Miyamoto T, Ohta K. Real-world safety and efficacy of omalizumab in patients with severe allergic asthma: A long-term post-marketing study in Japan. *Respiratory Medicine* 2018 Aug;141:56-63. doi: 10.1016/j.rmed.2018.06.021.

14. Bousquet J, Hellings PW, Agache I, Amat F, Annesi-Maesano I, Ansotegui IJ, Anto JM, Bachert C, Bateman ED, Bedbrook A, Bennoor K, Bewick M, Bindslev-Jensen C, Bosnic-Anticevich S, Bosse I, Brozek J, Brussino L, Canonica GW, Cardona V, Casale T, Cepeda Sarabia AM, Chavannes NH, Cecchi L, Correia de Sousa J, Costa E, Cruz AA, Czarlewski W, De Carlo G, De Feo G, Demoly P, Devillier P, Dykewicz MS, El-Gamal Y, Eller EE, Fonseca JA, Fontaine JF, Fokkens WJ, Guzmán MA, Haahtela T, Illario M, Ivancevich JC, Just J, Kaidashev I, Khaitov M, Kalayci O, Keil T, Klimek L, Kowalski ML, Kuna P, Kvedariene V, Larenas-Linnemann D, Laune D, Le LTT, Carlsen KL, Lourenço O, Mahboub B, Mair A, Menditto E, Milenkovic B, Morais-Almeida M, Mösges R, Mullol J, Murray R, Naclerio R, Namazova-Baranova L, Novellino E, O'Hehir RE, Ohta K, Okamoto Y, Okubo K, Onorato GL, Palkonen S, Panzner P, Papadopoulos NG, Park HS, Paulino E, Pawankar R, Pfaar O, Plavec D, Popov TA, Potter P, Prokopakis EP, Rottem M, Ryan D, Salimäki J, Samolinski B, Sanchez-Borges M,

Schunemann HJ, Sheikh A, Sisul JC, Rajabian-Söderlund R, Sooronbaev T, Stellato C, To T, Todo-Bom AM, Tomazic PV, Toppila-Salmi S, Valero A, Valiulis A, Valovirta E, Ventura MT, Wagenmann M, Wang Y, Wallace D, Wasserman S, Wickman M, Yorgancioglu A, Zhang L, Zhong N, Zidarn M, Zuberbier T, Mobile Airways Sentinel Network (MASK) Study Group. Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (ARIA) Phase 4 (2018): Change management in allergic rhinitis and asthma multimorbidity using mobile technology. *Journal of Allergy and Clinical Immunology*. 2019 Mar;143(3):864-879. doi: 10.1016/j.jaci.2018.08.049.

15. Tomyo F, Sugimoto N, Kawamoto M, Nagase H, Yamaguchi M, Ohta K. Anti-interleukin 5 antibody is effective for not only severe asthma and eosinophilic pneumonia but also eosinophilic bronchiolitis. *Respirology Case Reports*. 2018 Dec 18;7(2):e00397. doi: 10.1002/rcr2.397.

16. Bosnic-Anticevich S, Costa E, Menditto E, Lourenço O, Novellino E, Bialek S, Briedis V, Buonaiuto R, Chrystyn H, Cvetkovski B, Di Capua S, Kritikos V, Mair A, Orlando V, Paulino E, Salimäki J, Söderlund R, Tan R, Williams DM, Wroczynski P, Agache I, Ansotegui IJ, Anto JM, Bedbrook A, Bachert C, Bewick M, Bindslev-Jensen C, Brozek JL, Canonica GW, Cardona V, Carr W, Casale TB, Chavannes NH, Correia de Sousa J, Cruz AA, Czarlewski W, De Carlo G, Demoly P, Devillier P, Dykewicz MS, Gaga M, El-Gamal Y, Fonseca J, Fokkens WJ, Guzmán MA, Haahtela T, Hellings PW, Illario M, Ivancevich JC, Just J, Kaidashev I, Khaitov M, Khaltayev N, Keil T, Klimek L, Kowalski ML, Kuna P, Kvedariene V, Larenas-Linnemann DE, Laune D, Le LTT, Lodrup Carlsen KC, Mahboub B, Maier D, Malva J, Manning PJ, Morais-Almeida M, Mösges R, Mullol J, Münter L, Murray R, Naclerio R, Namazova-Baranova L, Nekam K, Nyembue TD, Okubo K, O'Hehir RE, Ohta K, Okamoto Y, Onorato GL, Palkonen S, Panzner P, Papadopoulos NG, Park HS, Pawankar R, Pfaar O, Phillips J, Plavec D, Popov TA, Potter PC, Prokopakis EP, Roller-Wirnsberger RE, Rottem M, Ryan D, Samolinski B, Sanchez-Borges M, Schunemann HJ, Sheikh A, Sisul JC, Somekh D, Stellato C, To T, Todo-Bom AM, Tomazic PV, Toppila-Salmi S, Valero A, Valiulis A, Valovirta E, Ventura MT, Wagenmann M, Wallace D, Wasserman S, Wickman M, Yiallourous PK, Yorgancioglu A, Yusuf OM, Zar HJ, Zernotti ME, Zhang L, Zidarn M, Zuberbier T, Bousquet J. ARIA pharmacy 2018 "Allergic rhinitis care pathways for community pharmacy": AIRWAYS ICPs initiative (European Innovation Partnership on Active and Healthy Ageing, DG CONNECT and DG Santé) POLLAR (Impact of Air POLLution on Asthma and Rhinitis) GARD Demonstration project. *Allergy*. 2019 Jul;74(7):1219-1236. doi: 10.1111/all.13701.

17. Tashiro S, Oku Y, Gotou N, Sugano T, Kikuhara K, Nakamura T, Suzuki H, Endo N, Miyata C, Mizuno K, Ishii N, Asato Y. Orthotic treatment for refractory plantar ulcers using distribution assessments of sensory disturbance and dynamic plantar pressure in patients with Hansen's disease: A case series. *The journal of Dermatology*. 2019 Jul;46(7):e248-e250. doi: 10.1111/1346-8138.14794.



18. Migita K, Horai Y, Kozuru H, Koga T, Abiru S, Yamasaki K, Komori A, Fujita Y, Asano T, Sato S, Suzuki E, Matsuoka N, Kobayashi H, Watanabe H, Naganuma A, Naeshiro N, Yoshizawa K, Ohta H, Sakai H, Shimada M, Nishimura H, Tomizawa M, Ario K, Yamashita H, Kamitsukasa H, Kohno H, Nakamura M, Furukawa H, Takahashi A, Kawakami A, Ohira H, Yastuhashi H. Serum cytokine profiles and Mac-2 binding protein glycosylation isomer (M2BPGi) level in patients with autoimmune hepatitis. *Medicine*. 2018 Dec;97(50):e13450. doi: 10.1097/MD.00000000000013450.
19. Fujisawa T, Mori K, Mikamo M, Ohno T, Kataoka K, Sugimoto C, Kitamura H, Enomoto N, Egashira R, Sumikawa H, Iwasawa T, Matsushita S, Sugiura H, Hashisako M, Tanaka T, Terasaki Y, Kunugi S, Kitani M, Okuda R, Horiike Y, Enomoto Y, Yasui H, Hozumi H, Suzuki Y, Nakamura Y, Fukuoka J, Johkoh T, Kondoh Y, Ogura T, Inoue Y, Hasegawa Y, Inase N, Homma S, Suda T. Nationwide cloud-based integrated database of idiopathic interstitial pneumonias for multidisciplinary discussion. *Eur Respir J*. 2019 May 18;53(5). pii: 1802243. doi: 10.1183/13993003.02243-2018.
20. Tsurikisawa N, Oshikata C, Sato T, Kimura G, Mizuki M, Tsuburai T, Shoji S, Saito H, Shimoda T. Low Variability in Peak Expiratory Flow Predicts Successful Inhaled Corticosteroid Step-Down in Adults with Asthma. *Journal of Allergy and Clinical Immunology-in Practice*. 2018 May - Jun;6(3):972-979. doi: 10.1016/j.jaip.2017.10.036.
21. Hiraishi Y, Yamaguchi S, Yoshizaki T, Nambu A, Shimura E, Takamori A, Narushima S, Nakanishi W, Asada Y, Numata T, Suzukawa M, Yamauchi Y, Matsuda A, Arae K, Morita H, Hoshino T, Suto H, Okumura K, Matsumoto K, Saito H, Sudo K, Iikura M, Nagase T, Nakae S. IL-33, IL-25 and TSLP contribute to development of fungal-associated protease-induced innate-type airway inflammation. *Scientific Reports*. 2018 Dec 21;8(1):18052. doi: 10.1038/s41598-018-36440-x.
22. Osumi M, Yamaguchi M, Sugimoto N, Suzukawa M, Arai H, Akiyama H, Nagase H, Ohta K. Allergy to carminic acid in vitro evidence of involvement of protein-binding hapten. *Asia Pacific Allergy* 2019 Jan 14;9(1):e2. doi: 10.5415/apallergy.2019.9.e2.
23. Tone K, Suzuki J, Alshahni MM, Kuwano K, Makimura K. Species-specific detection of medically important aspergilli by a loop-mediated isothermal amplification method in chronic pulmonary aspergillosis. *Medical mycology*. 2019 Jan 12. doi: 10.1093/mmy/myy128.
24. Furukawa H, Oka S, Shimada K, Hashimoto A, Komiya A, Tsunoda S, Suda A, Ito S, Saisho K, Katayama M, Shinohara S, Sato T, Nagatani K, Minota S, Matsui T, Fukui N, Sugii S, Sano H, Migita K, Nagaoka S, Tohma S. Independent association of HLA-DPB1\*02:01 with rheumatoid arthritis in Japanese populations. *Plos One* 2018 Sep 20;13(9):e0204459. doi: 10.1371/journal.pone.0204459.

25. Mori H, Sawada T, Nishiyama S, Shimada K, Tahara K, Hayashi H, Kato E, Tago M, Matsui T, Tohma S. Influence of seasonal changes on disease activity and distribution of affected joints in rheumatoid arthritis. *Bmc Musculoskeletal Disorders*. 2019 Jan 18;20(1):30. doi: 10.1186/s12891-019-2418-2.
26. Tokunaga K, Shiraishi A, Hagino N, Oshikawa H, Nishino J, Tohma S. Evaluation of the effect of foot disease activity on Boolean remission in Japanese patients with rheumatoid arthritis: A cross-sectional study *Musculoskeletal Care*. 2019 Mar;17(1):152-155. doi: 10.1002/msc.1371.
27. Matsumoto T, Matsui T, Hirano F, Tohma S, Mori M. Disease activity, treatment and long-term prognosis of adult juvenile idiopathic arthritis patients compared with rheumatoid arthritis patients. *Modern rheumatology*.2018 Nov 30:1-15. 2019 Jan
28. Tsuno H, Arito M, Suematsu N, Sato T, Hashimoto A, Matsui T, Omoteyama K, Sato M, Okamoto K, Tohma S, Kurokawa M, Kato T. A proteomic analysis of serum-derived exosomes in rheumatoid arthritis. *BMC rheumatology*. 2018 Nov 27;2:35. doi: 10.1186/s41927-018-0041-8.
29. Nogi S, Arinuma Y, Komiya A, Hashimoto A, Matsui T, Tohma S. Clinical Utility of Neutrophil CD64 to Detect Extrapulmonary Tuberculosis in Three Patients with Rheumatoid Arthritis Undergoing Treatment with Biologics. *Case reports in rheumatology*.2018.;2856546 2018 Dec
30. Namba N, Kawasaki A, Sada KE, Hirano F, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Shimada K, Hashimoto A, Matsui T, Nagasaka K, Sugihara T, Suzuki A, Yamagata K, Sumida T, Tohma S, Homma S, Ozaki S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N, Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS). Association of MUC5B promoter polymorphism with interstitial lung disease in myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Ann Rheum Dis*. 2019 Aug;78(8):1144-1146. doi: 10.1136/annrheumdis-2018-214263.
31. Nii T, Kuzuya K, Kabata D, Matsui T, Murata A, Ohya T, Matsuoka H, Shimizu T, Oguro E, Okita Y, Udagawa C, Yoshimura M, Kudo-Tanaka E, Teshigawara S, Harada Y, Yoshida Y, Isoda K, Tsuji SI, Ohshima S, Hashimoto J, Shintani A, Takehana Y, Tohma S, Saeki Y. Crosstalk between tumor necrosis factor- $\alpha$  signaling and aryl hydrocarbon receptor signaling in nuclear factor  $\kappa$ B activation: A possible molecular mechanism underlying the reduced efficacy of TNF-inhibitors in rheumatoid arthritis by smoking. *J Autoimmun*. 2019 Mar;98:95-102. doi: 10.1016/j.jaut.2018.12.004.
32. Maruyama T, Fujisawa T, Ishida T, Ito A, Oyamada Y, Fujimoto K, Yoshida M, Maeda H,

Miyashita N, Nagai H, Imamura Y, Shime N, Suzuki S, Amishima M, Higa F, Kobayashi H, Suga S, Tsutsui K, Kohno S, Brito V, Niederman MS. A Therapeutic Strategy for All Pneumonia Patients: A 3-Year Prospective Multicenter Cohort Study Using Risk Factors for Multidrug Resistant Pathogens To Select Initial Empiric Therapy. *Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America*. 2019 Mar 19;68(7):1080-1088. doi: 10.1093/cid/ciy631.

33. Hino H, Karasaki T, Yoshida Y, Fukami T, Sano A, Tanaka M, Furuhata Y, Ichinose J, Kawashima M, Nakajima J. Risk factors for postoperative complications and long-term survival in lung cancer patients older than 80 years. *European Journal of Cardio-Thoracic Surgery*. 2018 May 1;53(5):980-986. doi: 10.1093/ejcts/ezx437.

34. Yano T, Shimokawa M, Kawashima O, Takenoyama M, Yamashita Y, Fukami T, Ueno T, Yatsuyanagi E, Fukuyama S, Natl C. Hosp Org Network, G. Thoracic Oncology. The influence of comorbidity on the postoperative survival in elderly ( $\geq 75$  years old) with lung cancer. *General Thoracic and Cardiovascular Surgery*. 2018 Jun;66(6):344-350. doi: 10.1007/s11748-018-0919-9.

35. Ishii H, Watanabe K, Kushima H, Baba T, Watanabe S, Yamada Y, Arai T, Tsushima K, Kondoh Y, Nakamura Y, Terasaki Y, Hebisawa A, Johkoh T, Sakai F, Takemura T, Kawabata Y, Ogura T, Tokyo Diffuse Lung Dis Study Group. Pleuroparenchymal fibroelastosis diagnosed by multidisciplinary discussions in Japan. *Respiratory Medicine* 2018 Aug;141:190-197. doi: 10.1016/j.rmed.2018.06.022.

36. Suzuki Y, Uchida K, Takemura T, Sekine M, Tamura T, Furukawa A, Hebisawa A, Sakakibara Y, Awano N, Amano T, Kobayashi D, Negi M, Kakegawa T, Wada Y, Ito T, Suzuki T, Akashi T, Eishi Y. Propionibacterium acnes-derived insoluble immune complexes in sinus macrophages of lymph nodes affected by sarcoidosis. *PLOS ONE*. 2018 Feb 5;13(2):e0192408.

37. Asano K, Kamei K, Hebisawa A. Allergic bronchopulmonary mycosis - pathophysiology, histology, diagnosis, and treatment. *Asia Pacific allergy*. 2018 Jul 16;8(3):e24. doi: 10.5415/apallergy.2018.8.e24.

38. Kato T, Muto H, Hishima T, Kawashima M, Nagai H, Matsui H, Shimada M, Hebisawa A, Doki N, Miyawaki S, Ohashi, K. A 56-year-old woman with multiple pulmonary cysts and severe chest pain. *Chest* 2018; 153: e105-e112.

39. Ueki S, Hebisawa A, Kitani M, Asano K, Neves JS. Allergic bronchopulmonary aspergillosis - a luminal hypereosinophilic disease with extracellular trap cell death *Frontiers in Immunology* 2018 Oct 11;9:2346. doi: 10.3389/fimmu.2018.02346.

40. Mine T, Matsumoto T, Hayashi T, Tomita K, Masuda K, Kawashima M, Sakamaki F, Hasebe T. A

Stepwise Embolization Strategy for a Bronchial Arterial Aneurysm: Proximal Coil and Distal Glue with the Optional Use of a Microballoon Occlusion System. *Cardiovascular and Interventional Radiology*. 2018 Aug;41(8):1267-1273. doi: 10.1007/s00270-018-1969-1.

41. Okuda K, Chen G, Subramani DB, Wolf M, Gilmore RC, Kato T, Radicioni G, Kesimer M, Chua M, Dang H, Livraghi-Butrico A, Ehre C, Doerschuk CM, Randell SH, Matsui H, Nagase T, O'Neal WK, Boucher RC. Localization of Secretory Mucins MUC5AC and MUC5B in Normal/Healthy Human Airways. *American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine* 2019 Mar 15;199(6):715-727. doi: 10.1164/rccm.201804-0734OC.

42. Takeda E, Yamaguchi T, Mizuguchi H, Fujitani J, Meigen L. Development of a toileting performance assessment test for patients in the early stroke phase. *Disability and rehabilitation*. 2019 Nov;41(23):2826-2831. doi: 10.1080/09638288.2018.1479455.

43. Zuoyou L, Shiota S, Morio Y, Sugiyama A, Sekiya M, Iwakami S, Ienaga H, Fukuchi Y, Takahashi K. Borderline pulmonary hypertension associated with chronic hypercapnia in chronic pulmonary disease. *Respiratory physiology & neurobiology*. 2019 Apr;262:20-25. doi: 10.1016/j.resp.2019.01.003.

## 和文原著論文（筆頭筆者）

1. 後町 杏子, 赤川 志のぶ, 益田 公彦, 中村 澄江, 新福 響太, 蛇澤 晶: メトトレキサート肺炎/ 関連リンパ増殖性疾患を同時発症した関節リウマチの1例 日呼吸誌 2019; 8: 123-127.

2. 城 幸督, 扇谷 昌宏, 島田 昌裕, 守尾 嘉晃, 木谷 匡志, 瀬口 健至局所麻酔下胸腔鏡で診断した、術後19年経過し顕在化した腎細胞癌の肺・胸膜転移の1例. (2186-5876)8巻1号 Page6-10(2019.01)

3. 新福 響太, 合地 美奈, 高橋 直子, 稲木 俊介, 高木 正道, 桑野 和善. ジアフェニルスルホン併用中にST合剤で発症したメトヘモグロビン血症の1例. 呼吸器学会誌 2018;7(1), 59-62

4. 中山 馨, 上甲 覚, 蛇澤 晶, 木谷 匡志. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に眼瞼結膜腫瘍を合併した1症例 臨床眼科 2019; 73(3) 325-329

5. 福田 功, 桃核承気湯で偽アルドステロン症を発症したインスリン療法糖尿病患者の1症例. 日本東洋医学会誌(2019)70. 1

6. 福田 功, 分娩時損傷による排尿、排便障害に対して漢方治療が有効であった1症例. 産婦人科漢方のあゆみ

7. 宮川 和子, 大島 信治, 田村 厚久, 松井 弘稔, 永井 英明. 頸部および縦隔リンパ節結核から頸部皮膚瘻と食道結核をきたした HIV 感染症合併結核の 1 例 結核 2018;93:507-511
8. 渡邊 直昭, 大島 信治, 永井 英明, 加藤 貴史, 齋藤 美奈子, 五十嵐 彩夏, 鈴川 真穂, 川島 正裕, 浅里 功, 松井 弘稔. 成人における 4 価インフルエンザ不活化スプリットワクチンの免疫原性と安全性の検討 日本呼吸器学会誌 2018;7:197-203
9. 渡邊 かおる, 赤司 俊介, 赤川 志のぶ, 比嘉 克行, 木谷 匡志, 田村 厚久. 塵肺に合併した線香煙による過敏性肺炎の 1 例. 日本呼吸器学会誌 (2186-5876)7 巻 6 号 Page389-393 (2018. 11).

## 和文原著論文 (筆頭筆者以外)

10. 藤塚史子、言語聴覚士の現状と課題、今後の方針、取り組み 医療 2019;73:88-92

## 和文総説・著書 (筆頭筆者)

11. 大田 健, 佐々木 絢子, 江本 夏伯「特集/アレルギー疾患における最新の治療」に寄せる 重症喘息の治療コンセプト. アレルギーの臨床(0285-6379)38 巻 9 号 Page871-876(2018. 09)
12. 大田 健. こうして医療機関を変えてきた! 療養所を母体とする公的病院の一般病院への転換と経営改善への道のり(3). 保険診療(0385-8588)73 巻 6 号 Page40-41(2018. 06)
13. 大島 信治, 杉山 温人. 難治性の気管支喘息 内視鏡で気道を温め喘息発作を予防 82-83
14. 大島 信治 進化する気管支喘息治療. 日本内科学会雑誌. 第 107 巻. 第 6 号
15. 島田 昌裕, 鈴木 純子. 結核診療における NST の重要性、カレントセラピー、2018 年 ; 36 巻 8 号 : 799-805
16. 新藤 直子, 藤谷 順子. 薬害エイズ 総合リハビリテーション 2018; 46: 1231-1233
17. 新藤 直子. 国立病院機構内におけるリハビリテーションに求めるもの・期待するもの 2019; 73: 74-7
18. 新藤 直子, 藤谷 順子. 公害・薬害とリハビリテーション 薬害エイズ. 総合リハビリテーション (0386-9822)46 巻 12 号 Page1231-1233(2018. 12)

19. 鈴川 真穂. 基礎総論 喘息における気道炎症の概説. 医薬ジャーナル (0287-4741)54 巻 11 号  
Page2401-2405
20. 鈴川 真穂. アレルギー療養に対する肥満の影響. アレルギーの臨床 (0285-6379)38 巻 2 号  
Page129-132
21. 當間重人. 4. 特定の状況での抗リウマチ薬の薬剤選択と使い方『がん患者の関節リウマチ』
22. 永井 英明. 【ワクチン・予防接種:わが国における現状と課題】 高齢者へのワクチン接種 Pharma  
Medica 2018;36:25-28
23. 永井 英明. 【呼吸器感染症 成人肺炎診療ガイドライン 2017に基づくこれからの実地診療】 セミ  
ナー 日常診療に必要な具体的知識とその活用 肺炎と結核との鑑別と IGRA Medical Practice  
2018;35:573-577
24. 永井 英明. 【日本の結核の最近の動向-2020年に日本は結核低蔓延化を実現できるか?臨床医に求め  
られる対応】 減っていない粟粒結核 カレントセラピー2018;36:754-757
25. 永井 英明. 診断と治療の ABC[129]呼吸器感染症】 (第5章)抗酸菌感染症 肺結核症 最新医学.別  
冊呼吸器感染症 2017:208-213
26. 永井 英明. 【抗酸菌感染症の最新情報と展望】 肺外結核の現状と治療(解説/特集) 日本医師会雑誌  
2018;147:36
27. 永井 英明. 【老年医学(下)-基礎・臨床研究の最新動向-】 高齢者の臓器別疾患 感染症 高齢者の  
肺炎と肺炎球菌ワクチン 日本臨床 2018;76:552-556
28. 永井英明. 特集/呼吸器病学 TOPICS 2018-19:多剤耐性結核と新規抗結核薬の効果と使用法. 分子呼  
吸器病. 2019;23:39-41.
29. 永井英明. 今、求められる大人のワクチン:肺炎球菌ワクチン(PPSV23, PCV13). 臨床と微生物.  
2019;46:173-176
30. 蛇澤 晶, 木谷 匡志, 清水 宏繁, 田村厚久:細気管支炎の病理 呼吸器内科 2018; 33: 335-342.
31. 蛇澤 晶, 木谷 匡志, 清水 宏繁, 田村厚久:結核症と非結核性抗酸菌症 病理と臨床 2018; 増刊  
36: 170-177.
32. 蛇澤 晶. 木谷 匡志, 清水 宏繁, 田村 厚久【感染性疾患の病理】 (第2部)感染性疾患の病理 呼

吸器感染症 結核症と非結核性抗酸菌症. 病理と臨床 (0287-3745) 36 巻臨増 Page170-178 (2018. 04)

33. 堀部 光子, 蛇澤 晶, 三上 明彦, 倉島 篤行. 結核 学会分類 (日本結核病学会病型分類). 画像診断 2018 ; 38 : 88-93

34. 見波 亮. 【寝たきりゼロへ進化中 実践!離床完全マニュアル2】 (Chapter 3)わかりやすい!検査データの読み方と周辺機器の知識(Section 09) もうマスクも怖くない!NPPV の知識. Early Mobilization Mook4 巻 Page120-124 (2018. 11)

35. 守尾 嘉晃, 日下圭 : 間質性肺疾患に合併する肺高血圧症 呼吸器疾患診断治療アプローチ 4 間質性肺炎・肺線維症と類縁疾患:331-339, 2018.

36. 山根 章. 抗結核薬の減感作療法の実際. 長瀬洋之・編. 呼吸器疾患の薬物療法を極める. 東京 : 文光堂 ; 2018. pp. 264-267

## 和文総説・著書 (筆頭筆者以外)

37. 須永 眞司, 鹿毛 秀宣, 永井 英明, 寺本 信嗣. 【呼吸器感染症 成人肺炎診療ガイドライン 2017 に基づくこれからの実地診療】 増加している呼吸器感染症 医療・介護関連肺炎と非結核性抗酸菌症 Medical Practice 2018;35:506-521

## 国際学会

1. Arakawa S Siglec-8 may predict efficacy of mepolizumab among severe eosinophilic asthma The 67th Annual Meeting of the Japanese Society of Allergology
2. Kusaka K Pulmonary Vasoreactivity to Oxygen in Pulmonary Hypertension Due to Chronic Lung Disease American Thoracic Society International Conference 2018, San Diego, USA
3. Kobayashi K Secretary IgA induces cytokine production and inhibits proliferation and migration of airway epithelial cells American Thoracic Society International Conference 2018, San Diego, USA
4. Kobayashi K Epithelial-Mesenchymal Transition Induced by TGF- $\beta$ 1 Promotes Proinflammatory Cytokine Production in response to CpG ODN 24th: World Congress of Asthma 2018, Tokyo, Japan
5. Shimada M Benefit of medical thoracoscopy for the diagnosis of tuberculous pleuritis American Thoracic Society International Conference 2018, San Diego, USA
6. Suzukawa M Baseline serum cytokine levels may predict responders to omalizumab and mepolizumab 24th: World Congress of Asthma 2018, Tokyo, Japan
7. Suzukawa M Pathogenic activity of secretory IgA in lung fibrosis The 47th Japanese Society of Immunology
8. Takeda K Species identification and in vitro antifungal susceptibility of *Aspergillus* Section *Nigri* from clinical isolates and clinical features of patients with lung disease The 7th Global Network Forum on Infection and Immunity
9. Tashimo H Bronchial Aspergillosis After Bronchial Thermoplasty: A Case Report American Thoracic Society International Conference 2018, San Diego, USA
10. Narumoto O Fungal Hyphae-Containing Eosinophilic Bronchial Mucus Plugs in Patients with Allergic Bronchopulmonary Aspergillosis without asthma symptoms
11. Watanabe K Leptin Enhances Cytokine Synthesis By Human Lung Fibroblasts XXIV World Congress of Asthma 2018, Tokyo, Japan.



## 国内学会

1. 荒川 さやか 2018年4月 Human Lung Fibroblasts Release Inflammatory Cytokines in Response to Immunoglobulin A Stimulation 第58回日本呼吸器学会学術講演会
2. 赤川 志のぶ 2018年6月 結節・気管支拡張型（中葉舌区型）肺 MAC 症からみた特発性上葉肺線維症（PPFE）様画像所見の検討 第97回間質性肺疾患研究会
3. 赤川 志のぶ 2019年2月 間質性肺疾患における咳嗽 第12回慈恵呼吸器疾患診断カンファレンス
4. 赤司 俊介 2018年4月 高流量鼻カニューレ酸素療法と標準的酸素療法との CO2 ナルコーシス患者における有効性についての比較検討 第58回日本呼吸器学会学術講演会
5. 池田 みき 2018年12月 分子標的治療、免疫治療薬による重篤な薬物有害反応で入院となった肺癌患者の検討 第59回日本肺癌学会学術集会 京王プラザホテル
6. 伊藝 博士 2018年11月 肺癌化学療法中にみられた薬剤性肺障害の1例 第87回多摩呼吸器懇話会
7. 伊藤 郁乃 2018年6月 若年性脳卒中における睡眠時無呼吸症候群の罹患率とリハビリテーション医療効果の検証 日本リハビリテーション医学会第55回学術集会
8. 伊藤 郁乃 2018年11月 回復期病棟新設に伴う、患者属性・在院日数・在宅復帰率・ADL の変化についての調査第72回国立病院総合医学会
9. 井原 亜沙子 2018年11月 外来科学療法室における緩和ケア介入の後方視的調査 第59回日本肺癌学会学術集会（東京）
10. 井上 恵理 2018年4月 当院における器質化肺炎の検討 第58回日本呼吸器学会学術講演会
11. 井上 雄太 2018年7月 術後早期に再発した巨大肺嚢胞の1例 第38回東京胸部外科懇話会
12. 井上 雄太 2018年5月 当院における続発性気胸の臨床的検討 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会
13. 井上 雄太 2018年7月 術後早期に再発した巨大肺嚢胞の1例 第6回多摩呼吸器外科医会
14. 井上 雄太 2018年11月 原発性肺癌手術時における胸腔内洗浄細胞診陽性例の検討 第59回日本肺癌学会学術集会

15. 井上 雄太 2018年11月 炎症性肺疾患の外科療法 当院における肺非結核性抗酸菌症に対する外科的治療 第80回日本臨床外科学会総会
16. 植木 大介 2018年7月 発熱性好中球減少症に対するPEGフィルグラスチムの二次予防効果の検討 第16回日本臨床腫瘍学会学術大会
17. 植木 大介 2018年11月 病棟薬剤業務のスキルアップを目指したプレアボイド報告体制整備へ向けた検討—多施設共同実態調査— 第72回国立病院総合医学会
18. 植木 大介 2019年3月 カルフィルゾミブで透析を要する腎障害を来した多発性骨髄腫の1症例 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2019
19. 扇谷 昌宏 2018年4月 喫煙歴のある在宅酸素療法患者の生存期間に及ぼす、気腫化と線維化の影響についての検討 第58回日本呼吸器学会学術講演会
20. 大島 信治 2018年5月 肺炎球菌ワクチンの再々接種について 呼吸器感染症ワクチン研究会 2018
21. 大島 信治 2018年5月 「咳喘息治療のポイント」～アドヒアランスを踏まえた薬剤選択～ TV Symposium in 東京 2018
22. 大島 信治 2018年6月 「咳喘息治療のポイント」～アドヒアランスを考えた薬剤選択～ 呼吸器セミナーin 城東
23. 大島 信治 2018年6月 アレルギー喘息治療のこれからを考える Severe Asthma Forum～アレルギー喘息治療のこれからを考える～
24. 大島 信治 2018年8月 「喘息治療のポイント～アドヒアランスを踏まえた薬剤選択～」 立川喘息ミーティング
25. 大島 信治 2018年9月 『高齢者喘息治療のポイント～ピットフォールとアドヒアランスを踏まえた薬剤選択～』 西多摩医師会学術講演会
26. 大島 信治 2018年9月 「咳喘息治療のポイント」～ピットフォールとアドヒアランスを踏まえた薬剤選択～ 呼吸器 Lecture Meeting in 町田
27. 大島 信治 2018年9月 高齢者喘息治療のポイント～ピットフォールとアドヒアランスを踏まえた薬剤選択～ 大田区呼吸器疾患カンファレンス

28. 大島 信治 2018年10月 『気管支喘息の治療戦略～軽症から重症まで～』 むさしの呼吸器フォーラムのお知らせ
29. 大島 信治 2018年10月 『咳喘息治療のポイント』～薬剤選択の重要性について～ TV Symposium in 東京 2018
30. 大島 信治 2018年11月 『高齢者喘息治療のポイント』～ピットフォールとアドヒアランスを踏まえた薬剤選択～ 城西喘息フォーラム
31. 大島 信治 2018年11月 『喘息にいま必要な治療～医療費負担と治療意義を踏まえた生物学的製剤導入のポイント～』 重症喘息治療を学ぶ会～患者コミュニケーションのポイントを踏まえて～
32. 大島 信治 2018年12月 「肺炎球菌ワクチン再接種の重要性-高齢化社会を見据えて-」 高齢者の医療と予防を考える
33. 大島 信治 2018年12月 「最新の喘息治療について」 南多摩地区喘息講演会
34. 大島 信治 2019年2月 「ファセンラの臨床使用でわかったこと」 気道好酸球セミナー
35. 大島 信治 2019年2月 「重症喘息の治療戦略」 Severe Asthma Forum In Kiyose
36. 大島 信治 2019年3月 『高齢者喘息治療のポイント～ピットフォールとアドヒアランスを踏まえた薬剤選択～』 西多摩医師会学術講演会
37. 大島 信治 2019年3月 『アレルギー喘息治療のこれからを考える～症例から学ぶ抗体製剤の有用性～』 Severe Asthma Forum ～アレルギー喘息治療のこれからを考える～
38. 大島 信治 2019年3月 『重症喘息治療最前線～医療費負担と治療意義を踏まえた生物学的製剤導入のポイント～』 Asthma communication seminar
39. 大田 健 2018年4月 高用量 ICS/LABA でコントロール不良な日本人喘息患者を対象としたベンラリズマブの有効性 第58回日本呼吸器学会学術講演会
40. 大谷 恵里奈 2018年12月 がん患者に対する分子標的治療・免疫治療支援チーム介入効果の検討 第59回日本肺癌学会学術集会
41. 大谷 恵里奈 2019年1月 当院の化学療法副作用対応について Lung Cancer Team Meeting

in North Area

42. 大谷 恵里奈 2019年3月 がん治療に対するチームでの取り組み 第5回多摩肺癌チーム医療勉強会
43. 岡嶋 大樹 2018年11月 東京病院における複合機契約見直しによる費用削減の検証 第72回国立病院総合医学会
44. 川島 正裕 2018年4月 イブニングセミナー3 喀血に対する呼吸器血管内治療～その歴史を俯瞰し、現在のエビデンスを知る～ 第58回日本呼吸器学会学術講演会
45. 川島 正裕 2018年4月 喀血に対する呼吸器血管内治療 その歴史を俯瞰し、現在のエビデンスを知る 第58回日本呼吸器学会学術講演会
46. 川島 正裕 2018年6月 診断の遅延とCAM単剤治療が難治化の要因と考えられたM. massiliense症の一例 第48回臨床結核研究会
47. 川島 正裕 2018年12月 病態を捉えた在宅酸素療法『抗酸菌感染症とその後遺症』 第28回神奈川県在宅呼吸管理研究会
48. 川島 正裕 2019年3月 少量喀血に対する待機的BAEの意義 第4回 呼吸器血管内治療研究会
49. 河村 亜莉紗 2018年11月 左肺全摘出術後に嚥下障害を呈した肺アスペルギルス症の一例 嚥下障害の臨床経過 第72回国立病院総合医学会
50. 木村 悠哉 2018年5月 喀血を契機に診断した誤嚥性肺炎の1例 第564回呼吸器臨床談話会
51. 木村 悠哉 2018年9月 化学療法終了後早期に再発し、外科的リンパ節郭清を要した頸部リンパ節結核の一例 174回日本結核病学会関東支部学会・231回日本呼吸器学会関東地方会合同学会
52. 日下 圭 2018年4月 高齢者小細胞肺癌における化学療法 第58回日本呼吸器学会学術講演会
53. 日下 圭 2018年6月 東京病院における副作用対策チームの取り組み 第8回北多摩北部肺癌治療懇話会
54. 日下 圭 2018年11月 大量喀血をきたし肺切除にて診断された高安動脈炎の一例 第232回 日本呼吸器学会関東地方会

55. 日下 圭 2018年11月 当院で経験した呼吸器疾患を合併した PAH/PH 症例 第7回 城北肺高血圧症カンファレンス
56. 日下 圭 2018年12月 免疫関連有害事象発症例の治療と予後について 第59回 日本肺癌学会学術集会
57. 日下 圭 2019年1月 肺疾患に伴う肺高血圧症における酸素負荷時の血管反応性についての検討 呼吸器イメージング研究会
58. 日下 圭 2019年3月 高齢者肺癌に対する ICI の投与経験 Immuno-Oncology Seminar in Kiyose
59. 小岩 智大 2018年7月 胸部CT上すりガラス影を呈し、診断に難渋した肺結核の1例 第643回 日本内科学会関東地方会
60. 金野 史 2018年6月 結核診断における便抗酸菌検査の有用性の検討 第96回日本結核病学会総会
61. 小林 宏一 2018年6月 A549細胞のEMT誘導後 CpG ODN 刺激によるサイトカイン産生における細胞内シグナル経路の解析 第67回 日本アレルギー学会学術大会
62. 後藤 祥吾 2018年11月 働き方改革を進める中で個が輝くための人材育成を考える 増やすこと減らすことで働き方改革・人材育成を考える 第72回国立病院総合医学会
63. 後町 杏子 2018年4月 肺 MAC 症の経過中に PPF 様の無気肺硬化像を呈した症例の臨床的検討 第58回日本呼吸器学会総会
64. 齋藤 郁里 2018年11月 胸部単純画像の送信サイズ実態調査～RIS サムネイル画像導入前後における比較読影のしやすさの追求～ 第72回国立病院総合医学会
65. 佐藤 研人 2018年4月 抗 MAC 抗体陽性と喀痰培養で MAC が1回陽性で肺 MAC 症と診断してよいか 第58回日本呼吸器学会総会
66. 佐藤 研人 2018年6月 MAC 抗体陽性と胃液培養で MAC が陽性で肺 MAC 症の早期診断は可能か 第94回日本結核病学会総会
67. 佐藤 亮太 2018年6月 腸結核症例の臨床的検討 第93回 日本結核病学会総会
68. 佐藤 亮太 2018年10月 GATA2 遺伝子変異を認めた肺胞蛋白症の1例 第98回間質性肺疾患研究会

69. 清水 宏繁 2018年7月 壊死性血管炎所見を呈した肺高血圧症の一部検例 第53回呼吸器病理研究会
70. 城 幸督 2018年6月 結核入院治療中における Clostridium difficile infection 発症例に関する検討 第92回日本感染症学会学術講演会 第66回日本化学療法学会総会 合同学会
71. 新福 響太 2018年6月 Mycobacterium avium complex に対してガイドラインに沿った治療を行った後の再発リスクについての検討 第93回日本結核病学会総会
72. 新福 響太 2018年6月 Mycobacterium avium complex に対してガイドライン治療を行った後の再発リスクについての検討 第93回日本結核病学会総会
73. 新福 響太 2018年7月 MTX 関連リンパ増殖性疾患と MTX 関連間質性肺炎が同時に認められた1例 第230回日本呼吸器学会関東地方会
74. 鈴川 真穂 2018年4月 間質性肺炎の肺病変における IL-9 および IL-9 レセプターの発現解析 第58回日本呼吸器学会学術講演会
75. 鈴川 真穂 2018年6月 メボリズマブ投与喘息患者における血清サイトカイン値の検討 第67回日本アレルギー学会学術大会
76. 鈴川 真穂 2018年10月 結核感染における QFT Gold Plus, QFT Gold In Tube の残血漿中サイトカイン値の検討 第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第65回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2018
77. 鈴木 淳 2018年6月 急性呼吸促迫症候群を合併した粟粒結核症例の検討 第93回日本結核病学会総会
78. 鈴木 純子 2018年10月 高齢者結核について 北区 結核講演会
79. 鈴木 純子 2019年2月 慢性肺アスペルギルス症治療における抗真菌薬の使い分けと使用法 第47回本郷呼吸器研究会
80. 瀬口 健至 2018年10月 急速な転機を辿った腎粘液管状紡錘細胞癌の1例 第83回 日本泌尿器科学会東部総会
81. 武田 啓太 2018年6月 活動性結核、LTBI、結核既往、健常対象における QFT-Gold Plus、QFT Gold In Tube、T-SPOT TB の比較検討 第93回 日本結核病学会総会

82. 武田 啓太 2018年6月 増悪と自然寛解を繰り返した肺 MAC 症の1例 第86回多摩呼吸器懇話会
83. 武田 啓太 2019年2月 IGRA の適正な解釈と活用について 第16回結核研修セミナー
84. 田下 浩之 2018年11月 当院におけるベンラリズマブの使用経験 第82回臨床アレルギー研究会
85. 田村 厚久 2018年6月 肺腺癌におけるEGFR 変異と潜在性結核感染症 第93回日本結核病学会総会
86. 田村 厚久 2018年10月 結核の最新の診断と治療について 江東区保健所主催講演会(江東区医師会学術部共催)
87. 田村 厚久 2018年11月 肺がん治療の現状 東京都病院協会 診療情報管理勉強会 シリーズ講座 臨床医学勉強会 第16回
88. 田村 厚久 2018年12月 最近の肺癌患者におけるLTBI 第59回日本肺癌学会学術集会
89. 坪内 陽子 2018年11月 脳梗塞慢性期に軽度嚥下障害が残存した一症例に対する表面電気刺激療法 第72回国立病院総合医学会
90. 當間 重人 2018年5月 関節リウマチ治療の” 現在地” -NinJa でみる変遷と残された課題- Biologics User's Meeting in YAMAGATA
91. 當間 重人 2018年5月 関節リウマチ治療の” 現在地” -NinJa でみる変遷と残された課題- プライマリ・ケア医、専門医のための関節リウマチ公開セミナー
92. 當間 重人 2018年7月 NinJa から見えてくる関節リウマチ治療の現状とトファシチニブへの期待と課題 多摩地区関節リウマチ治療学術講演会
93. 當間 重人 2018年7月 NinJa から見える関節リウマチ治療の現状と課題 ～エタネルセプトが果たしてきた役割～ 第16回 Rheumatology Update Tokyo -RA 治療に携わる整形外科医の集い-
94. 當間 重人 2018年7月 関節リウマチ診療の現状と課題を考えてみる 第22回相模原リウマチ講演会
95. 當間 重人 2018年8月 関節リウマチ診療の変遷と残された課題-NinJa からの報告- 平成30年度第2階(通算第331回) 東京都臨床整形外科医会(TCOA)統合研修会

96. 當間 重人 2018年8月 日本における関節リウマチ治療の変遷と現状～NinJaからの報告～ エンブレインターネットシンポジウム
97. 當間 重人 2018年11月 バイオシミラーはRA完解患者を増やせるか？ 第33回日本臨床リウマチ学会
98. 當間 重人 2019年1月 日常診療におけるMTXの役割とオレンシアの可能性 関節リウマチ懇話会 in 中越
99. 永井 英明 2018年4月 非結核性抗酸菌症のUp To Date 第22回区西南部総合診療・感染+C7:E36+C7:D9症研究会
100. 永井 英明 2018年4月 知らなきゃ恥ずかしい結核の基礎知識：肺結核の診断 第58回日本呼吸器学会学術講演会
101. 永井 英明 2018年6月 結核感染制御におけるIGRAの重要性について 第92回日本感染症学会学術講演会, 第66回日本化学療法学会総会合同学会
102. 永井 英明 2018年6月 【成人肺炎診療ガイドライン2017－高齢者肺炎治療の是非をめぐって】終末期高齢者の肺炎治療について考える－終末期高齢者結核治療から得られること－ 第92回日本感染症学会学術講演会, 第66回日本化学療法学会総会合同学会
103. 永井 英明 2018年6月 非結核性抗酸菌症の診断と治療－最近の感染症の話題を添えて－ 城東呼吸器セミナー
104. 永井 英明 2018年6月 結核感染制御におけるIGRAの意義およびQFT-Plusについて 第8回結核感染診断研究会
105. 永井 英明 2018年6月 多剤耐性結核の治療とデラマニドの意義 第93回結核病学会総会
106. 永井 英明 2018年7月 結核の病院感染予防対策 日本病院会主催「感染対策担当者のためのセミナー」
107. 永井 英明 2018年7月 精神科病院における結核感染対策 第6回精神科感染制御セミナー
108. 永井 英明 2018年9月 日本の高齢者における季節性インフルエンザの現状について メディアラウンドテーブル「インフルエンザ弱者」を取り巻く疾病負荷～健康な高齢化社会を見据えた海外の最新



動向と日本の現状～

109. 永井 英明 2018年9月 ランチョンセミナー1：肺アスペルギルス症の病態および診断と治療－呼吸器疾患合併症としてのアスペルギルス症－ 第62回日本医真菌学会総会・学術集会
110. 永井 英明 2018年9月 高齢者における季節性インフルエンザの疾病負荷について 高抗原量季節性インフルエンザワクチンアドバイザー会議
111. 永井 英明 2018年9月 非結核性抗酸菌症の治療について 第23回南東北化学療法シンポジウム
112. 永井 英明 2018年9月 結核感染症における IGRA の位置づけ 第6回結核感染診断フォーラム
113. 永井 英明 2018年10月 IGRA の適正な解釈と臨床上の位置づけ 第81回日本呼吸器学会・日本結核病学会/日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部秋季学術講演会
114. 永井 英明 2018年10月 HIV感染症における緩和ケア & 非結核性抗酸菌症 九州ブロックエイズ拠点病院研修会
115. 永井 英明 2018年10月 インフルエンザについて 報徳看護専門学校「りんどう祭」記念講演会
116. 永井 英明 2018年10月 結核の院内感染対策 報徳会宇都宮病院 院内感染対策講演会
117. 永井 英明 2018年11月 非結核性抗酸菌症の治療をどうする？ 第6回富山結核・抗酸菌症研究会
118. 永井 英明 2018年11月 成人を対象としたワクチン－带状疱疹ワクチン－ 第24回 北多摩北部感染対策研究
119. 永井 英明 2018年12月 肺炎球菌ワクチンPPSV23の再接種の考え方 成人ワクチンお昼のWeb講演会
120. 永井 英明 2019年2月 Interferon- $\gamma$  Release Assay の基本と応用:IGRA の原理と応用 第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会
121. 永井 英明 2019年2月 これからのワクチン戦略：誰が、いつ、何を？： 高齢者 第30回日本臨床微生物学会総会・学術集会
122. 永井 英明 2019年2月 結核と非結核性抗酸菌症 東京内科医会 第35回セミナー：21世紀の感染症対策 2019

123. 永井 英明 2019 年 3 月 結核診断と治療の現状と課題 ～IGRA の臨床上の位置づけ～ QIGEN®  
IGRA セミナー東京 2019 ～結核の診断と治療における IGRA の役割～
124. 中山 馨 2018 年 10 月 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に眼瞼結膜腫瘤を合併した 1 症例 第 72 回  
日本臨床眼科学会
125. 中村 真弓 2018 年 2 月 経腸栄養ポンプ使用に嘔吐症状の改善がみられ離床が可能となったくも  
膜下出血の一症例 回復期リハビリテーション病棟協会第 33 回研究大会
126. 中村 澄江 2018 年 5 月 局所麻酔下胸腔鏡にて確定診断した胸水随伴悪性リンパ腫の 2 例 第 41  
回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
127. 長瀬 まき 2018 年 4 月 高度皮疹により投与継続困難となった分子標的薬に対する急速減感作療  
法の有用性 第 58 回日本呼吸器学会学術講演会
128. 長瀬 まき 2018 年 10 月 膀胱癌に対し BCG 膀胱内注入療法を受け、14 年後に BCG による粟粒結核  
を発症した 1 例 第 67 回日本感染症学会東日本地方会学術集会第 65 回日本化学療法学会東日本支部総会  
合同学会
129. 名越 咲 2018 年 4 月 肺アスペルギルス症における Platelia Aspergillus IgG 測定の検討 第 60  
回日本呼吸器学会総会
130. 名越 咲 2018 年 6 月 2017/2018 年 4 価インフルエンザワクチンの有効性と安全性についての臨床  
研究 第 92 回日本感染症学会学術講演会 第 66 回日本化学療法学会総会 合同学会
131. 野上 智絵 2018 年 6 月 多職種チーム連携により意志決定支援を実践し在宅での最期を迎えられ  
た一事例 第 23 回日本緩和医療学会学術大会(神戸)
132. 野上 智絵 2018 年 11 月 退院調整看護師参加によるスムーズな在宅緩和ケアへの移行 第 72 回  
国立病院総合医学会 (神戸)
133. 橋本 研甫 2018 年 6 月 抗酸菌治療における急速減感作療法の安全性 第 93 回日本結核病学会
134. 花井 みき 2018 年 6 月 当院における肺 Mycobacterium avium complex 症に対する Sitafloxacin  
使用症例に関する検討 第 93 回日本結核病学会総会
135. 花村 芽衣 2018 年 11 月 労作時酸素化低下に伴い呼吸苦が少ない間質性肺炎患者に対して療養日

誌による相互的自己管理教育が有効であった1症例 第72回国立病院総合医学会

136. 八丁 明菜 2018年11月 緩和ケア病棟で最期を迎える患者の家族へのケア計画 ～リーフレットを用いた家族ケアに着目して～ 第72回国立病院総合医学会（神戸）

137. 比嘉 克行 2018年6月 肺結核に続発した気胸例の検討 第95回日本結核病学会総会

138. 比嘉 克行 2018年6月 若年発症肺 MAC 症の検討 第97回日本結核病学会総会

139. 比嘉 克行 2019年2月 胸囲結核との鑑別が困難であった *Aspergillus fumigatus* による膿胸・皮下膿瘍の1剖検例 第233回日本呼吸器学会関東地方会

140. 深見 武史 2018年5月 肺癌術後フォロー中に肺アスペルギルス症に罹患した症例の検討 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会

141. 深見 武史 2018年6月 当院における慢性肺アスペルギルス症に対する肺切除例の検討 第93回日本結核病学会総会

142. 深見 武史 2018年12月 2018年 国立病院機構東京病院手術症例 第39回東京胸部外科懇話会

143. 福田 功 2018年6月 前投薬として漢方薬が有効であったパニック障害合併手術患者2症例について 第69回日本東洋医学会学術集会

144. 福田 功 2018年8月 分娩時損傷による排尿、排便障害に対して桃核承気湯が効いた1症例 第38回産婦人科漢方研究会

145. 藤田 克也 2018年11月 水晶体被ばくの実態調査 ―国立病院等の不均等被ばくに関する現状― 第72回国立病院総合医学会

146. 藤田 克也 2018年11月 群馬県技師会と共催したポジショニング研修会の教育効果 ～研修会前後での臨床画像から評価した結果～

147. 古川 雅徳 2018年11月 機能的電気刺激により反張膝改善を認めた脳卒中患者の歩行分析 第72回国立病院総合医学会

148. 蛇澤 晶 2018年6月 結核菌感染症の病理 第107回 日本病理学会総会

149. 蛇澤 晶 2018年7月 間質性肺炎の病理 第1回 坪井病院 MDD カンファランス

150. 蛇澤 晶 2018年7月 TBLB で太い肺動脈が損傷され喀血で亡くなった一例 第53回呼吸器病理研究会
151. 蛇澤 晶 2018年8月 IPF の病理形態 第2回 IPF educational seminar
152. 蛇澤 晶 2018年10月 抗 GM-CSF 抗体陰性の肺胞蛋白症 第98回間質性肺疾患研究会
153. 蛇澤 晶 2018年10月 慢性間質性肺炎 VATS 6例の病理形態を提示 第19回東京びまん性肺疾患研究会
154. 蛇澤 晶 2019年1月 間質性肺炎の病理 第2回 坪井病院 MDD カンファランス
155. 蛇澤 晶 2019年1月 びまん性気管支拡張症の病理形態 第47回難治気道疾患研究会
156. 蛇澤 晶 2019年2月 IPF を中心とした慢性間質性肺炎の病理形態 第42回 東邦大学呼吸器セミナー
157. 蛇澤 晶 2019年3月 好酸球性肉芽腫性多発血管炎 (eosinophilic granulomatosis with polyangiitis) の病理形態 第38回日本画像医学会
158. 蛇澤 晶 2019年3月 肺アスペルギルス症の病理形態と細胞診像 第48回多摩細胞診研究会
159. 堀部 光子 2018年11月 慢性結核性膿胸に合併した血管肉腫 Chest imaging forum
160. 本間 仁乃 2018年6月 肺高血圧症患者における右心機能保持のための血行動態指標とは? 日本超音波医学会第91回学術集会
161. 松木 明 2018年6月 肺 M. abscessus complex 症における MAC 抗体の陽性率 第93回日本結核病学会総会
162. 水口 寛子 2018年9月 過去12年分の OT 学会における呼吸器関連演題のレビュー 第52回作業療法学会 (名古屋)
163. 水口 寛子 2018年11月 作業療法が処方された新規 HOT 導入患者の特徴 -患者台帳からの後方視的調査- 第72回国立病院総合医学会
164. 見波 亮 2018年6月 ICU における早期離床の進め方 第8回日本離床学会全国研修・学術大会

165. 見波 亮 2018年6月 NPPVの基礎知識 第8回日本離床学会全国研修・学術大会
166. 宮川 和子 2018年5月 当院における気管支サーモプラスティ長期経過の報告 第41回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会
167. 宮本 直 2018年11月 末期を自宅で過ごす呼吸器疾患患者の退院調整への臨床工学技士の係わり 第72回国立病院総合医学会
168. 村山 朋美 2018年6月 緩和ケアチーム活動の質の向上を図るための取り組み 第23回日本緩和医療学会学術大会(神戸)
169. 森 達也 2018年11月 公共交通機関利用に向けてルート検索アプリ導入が有効だった高次脳機能障害の一例 第72回国立病院総合医学会
170. 守尾 嘉晃 2018年6月 診療ガイドライン (GRADE方式) から見た3群PHの現状 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会、シンポジウム、大阪
171. 守尾 嘉晃 2019年2月 診療ガイドライン (GRADE方式) から見た3群PHの現状 北多摩地区肺高血圧症講演会、state of the art、東京
172. 山口 悟史 2018年11月 他院紹介CDの入出力を簡便に効率的に改善した事例 ～紹介情報管理システム MoveBy 導入による恩恵～ 第72回国立病院総合医学会
173. 安田 将 2018年12月 看護師の勤務体制変更による脳血管疾患患者の転倒に関する考察 第16回国立病院看護研究学会学術集会(広島)
174. 山口 美保 2018年9月 発症から8ヵ月後に卵巣奇形腫が判明した抗NMDA受容体抗体脳炎の1例 第644回日本内科学会関東地方会
175. 山口 美保 2018年7月 食道悪性黒色腫による食道通過障害に対して放射線治療が奏功した1例 第643回日本内科学会関東地方会
176. 山本 純平 2018年10月 EGFR-TKI rechallenge中の小細胞癌形質転換の1例 第645回日本内科学会関東地方会
177. 山本 章太 2018年4月 経皮的気管支動脈塞栓術における術中合併症 血管損傷24例の検討 第59回日本呼吸器学会総会

178. 山根 章 2018年6月 軽症 M. abscessus . abscessus 症の1例 第48回 臨床結核研究会
179. 山根 章 2019年1月 無治療で軽快した肺 M. abscessus 症の1例 第49回 臨床結核研究会
180. 横須賀 響子 2018年4月 メポリズマブ導入症例の臨床的検討 第58回日本呼吸器学会総会
181. 吉川 祥子 2018年11月 左被殻出血により右片麻痺を呈した患者に機能的電気刺激装置 (NESS H200) を用いて麻痺側手指の痙縮抑制、機能維持を図っている1例 第72回国立病院総合医学会 (神戸)
182. 吉田 大介 2018年11月 空洞性結節を呈した肺原発悪性リンパ腫にアスペルギルス感染を併発した一例 第59回日本肺癌学会学術集会
183. 吉田 大介 2019年1月 血痰を伴う肺アスペルギルス症はどこまで外科治療をすべきか? 第7回多摩呼吸器外科医会
184. 吉田 大介 2019年3月 TBLBによる大咯血に対し ECMO 下に緊急左肺下葉切除を施行した一例 第184回日本肺癌学会関東支部学術集会
185. 四元 拓真 2018年5月 胸腔鏡下に切除した肺葉内肺分画症の4例 第35回日本呼吸器外科学会総会・学術集会
186. 四元 拓真 2018年12月 前縦隔腫瘍が疑われた卵巣癌術後晩期再発の1例 第59回日本肺癌学会学術集会
187. 我妻 美由紀 2018年6月 Allergic bronchopulmonary mycosis (ABPM) の細胞像と診断有効性についての検討 第59回日本臨床細胞学会総会
188. 脇 実花 2018年11月 ICUにおける挿管患者へのせん妄ケアの現状 ～J-PAD ガイドラインを導入して～ 第72回国立病院総合医学会 (神戸)
189. 渡邊 かおる 2018年9月 レプチンによる肺線維芽細胞の活性化機構の検討 第32回アレルギー・好酸球研究会
190. 渡辺 将人 2018年6月 機械的人工換気を要した肺結核症例の治療成績 第93回日本結核病学会総会
191. 渡辺 将人 2018年9月 急速に進行した両肺びまん性誤嚥性肺炎の1例 第644回日本内科学会関東地方会